

我が校のものがたり

— かけがわ学力向上ものがたり（別冊） —

掛川市教育委員会では、「学力」とは何かを学校・家庭・地域で共通理解し、どのようにしたら学力の向上が図れるか、その理念や方法等を「ものがたり」としてまとめた「かけがわ学力向上ものがたり」を平成26年3月に策定し、以後、毎年度改訂を重ねています。

また、平成29年告示の学習指導要領完全実施と1人1台端末導入に合わせて策定した「かけがわ型GIGAスクール構想」に基づき、これまでの授業改善の取組を大切にしながら、ICTを活用した「新たな学びのスタンダード」を実践し、授業改革に取り組んでいるところです。今年度は、令和3年度に策定した「未来を切り拓く3つの創る力～『創像力』『創合力』『創律力』～の育成」を柱に、1人1台端末の効果的な活用や園小・小中の接続も意識しながら、実践を重ねていきます。

各校においては、こうした方針を土台にしながら、児童生徒の学習状況や地域の特色を生かした独自の学力向上の方策を考え「我が校のものがたり」としてまとめました。これを基盤とした共通理解のもと、全教職員が組織的に協働し、実践と検証を積み重ねることで自校の課題解決を図っていきます。また、学びを学校の外へも開いて、家庭や地域の力を生かし、学びの主体者である一人一人の子どもの生きる力を育む教育活動の充実に努めてまいります。

令和5年6月
掛川市教育委員会

目 次

頁

【小学校】

1	日坂小学校	4
2	東山口小学校	6
3	西山口小学校	8
4	上内田小学校	10
5	城北小学校	12
6	第一小学校	14
7	第二小学校	16
8	中央小学校	18
9	曾我小学校	20
10	桜木小学校	22
11	和田岡小学校	24
12	原谷小学校	26
13	原田小学校	28
14	西郷小学校	30
15	倉真小学校	32
16	土方小学校	34
17	佐束小学校	36
18	中小学校	38
19	大坂小学校	40
20	千浜小学校	42
21	横須賀小学校	44
22	大淵小学校	46

【中学校】

23	栄川中学校	50
24	東中学校	52
25	西中学校	54
26	桜が丘中学校	56
27	原野谷中学校	58
28	北中学校	60
29	城東中学校	62
30	大浜中学校	64
31	大須賀中学校	66

小学校

日坂小学校

令和5年度 我が校のものがたり

子どもの実態

- 積極的に発言したり、課題を解決したりしようとする姿勢が高まった。
- 学習したことを活用して課題を解決しようとする姿が見られた。
- ICTを積極的に使うことができる。
- △友達の考えを素直に聞き入れてしまい、質問や反論があまりできない。
- △対話の力の個人差が大きい。
- △基礎学力が定着していないところがある。



研修テーマ

進んでかかわり学び合う子の育成
～深い学びを引き起こす、主体的な学び合いのある授業づくり～



研修の取組

1 育成を目指す資質・能力を明確にした単元構想

- ・子どもが主体的に考えたい学習課題を設定する。
- ・各授業で評価場面や評価方法を明確にする。（指導と評価の一体化）
- ・授業の中で、子どもがやってみたいと思えるしかけを講じる。

2 学びを深めるための対話

- ・対話場面の設定の意図を明確にする。
- ・教師は、子どもと子どもを繋ぐ場を作る役割を担う。（ファシリテーター）
- ・発達段階に応じた交流を設定する。（ペア・グループ・全体）

3 日常的な研修の推進

- ・「3つの創る力」を発揮し、育成する場を意識した単元の構想。
- ・職員室で情報交換と学び合い。
- ・デジタルとアナログのベストミックスを図る。



学力向上への特色ある取組

基礎学力の向上

- ・ ぐんぐんタイム(朝活動学習)
毎週2日間の朝活動で基礎学力の定着を図る。
- ・ ぐんぐんテスト
年間2回国語・算数のまとめテストを実施し、基礎学力の定着を確認する。
- ・ 読書習慣
週に1回学校図書館を必ず利用する日を設け、本にふれる機会を増やす。



家庭学習の充実

- 生活カードの活用
 - ・ 家庭学習開始時刻の設定。
 - ・ 学年×10分の学習時間を意識させるために学習時間を記入。
- 毎週金曜日の下校時刻を早め、帰宅後すぐに学習する習慣付けを図る。
- 発達段階に応じて反転授業を取り入れ、授業と家庭学習の繋がりを図ることで授業での対話の時間を確保し、学びを深める。(家庭と連携しライズスパイラル学習を実践)

社会を意識した自己表現活動の充実

- ・ 対話タイム
朝活動(火)対話タイムでは、自分の考えが伝わる楽しさを実感させる。
 - ・ かがやき発表会
双方向での対話活動を通して、自己課題探求の改善を図る場とする。
 - ・ iPadを活用した効果的な情報発信。
 - ・ 地域とつながる総合的な学習。
- ☆単元を見通し、「3つの創る力」を發揮するよう意識的に取り組む。

デジタルとアナログのベストミックス

- ☆校内研修でアプリ活用の実技研修をしたり、職員連絡や打合資料でアプリを活用したりすることで、日常的に教職員がiPadを使い、慣れる。このOJTを生かした取組によって、授業での活用を増やしていく。
- ・ 各教室にICTを活用しやすい教具を用意することと自立式ホワイトボードを複数台用意することによって、子ども同士が話し合い、思考を深めやすい学習の場をつくる。

栄川学園の連携

- ・ 幼・小・中の授業や活動を参観後、学園共通の視点で事後研修を行う。
- ☆各園・校での授業公開を行い、「かけがわ型育ちと学びのジョイントブック」を活用して、12か年を見通した児童の姿で研修を実施する。



目指す子どもの姿

- ① 自分から考えよう、解決しよう、表現しようとする姿
- ② 自分と他者の考えを比べ、対話によって深める姿

東山口小学校

令和5年度 我が校のものがたり

子どもの実態

【成果】

- ・ これまでに身に付けた「見方・考え方」を使えば、新たな問題も自分たちで解決できるかもしれないと考えられる子どもが増えてきた。
- ・ 自分たちで授業をつくろうという思いが育っている。

【課題】

- ・ 自分と違う意見を認められない。深め合い、学び合いに進まない。
- ・ 学習に対して、「知りたい」「深めたい」という思いが弱い。

研修テーマ

進んでかかわり学び合う子の育成

～思わず考えたくなるような学習問題から対話が生まれ、
新たな気づきを獲得する授業づくり～



研修の取組

サブテーマ「思わず考えたくなるような学習問題から対話が生まれ、新たな気づきを獲得する授業づくり」を実現することが、研修テーマ「進んでかかわり学び合う子の育成」の達成につながると考える。達成のために、以下の2つの手立てを取り、研修を進める。

(1) 子どもが思わず考えたくなるような学習問題の設定と単元構想の工夫

- 「子どもにとって必要感のある問いか。」「既習したことを活用し解決できる問いか。」「協働して解決する価値がある問いか。」を吟味する。 **創律力の育成**
- 育成したい資質・能力を考え、単元構想を立てる。毎時間、どのような学習問題にするかを明示する。 **創像力の育成**

(2) うまれた対話の調整と促進 **創合力の育成**

- 教師はファシリテーター（調整・促進役）。子どもの意見をつなぐ・切り返す・待つなどして、授業のねらいにせまっていく。
- 対話の目的（共通点、相違点を見つける対話・確認の対話・意見をまとめる対話など）を明確にし、教師と子どもで共有する。
- 授業のどの場面で、どのような形態で何の目的のために対話を行うか考える。

学力向上への特色ある取組

生徒指導部との連携

PDCA サイクルを意識した

子どもたちの手による授業づくり

- ・ 4月に、各学級でめざす授業について話し合い、目標をたてる。学期の中間に振り返り、評価を行う。評価をもとに自分たちの授業を見直したり、次の学期の目標をたてたりする。
- ・ 学級の目標を実現するために個人の目標をもち、一人一人が自分みがきをできるようにする。



やさしさづくり部との連携

認め合いタイム

- ・ 友達のがんばりや成長を認め合う時間とする。帰りの会で位置づける。互いに認め合う温かい学級づくりは、授業の土台となる。

認め合いを促進させる学級活動

- ・ グループエンカウンターや人間関係作りプログラム・学級会を柱にした年間計画に基づいて、学級活動を行う。



校内研修

学びづくり部との連携

対話タイム

- ・ 毎週火曜日の朝活動に行く。
- ・ 学び合うために必要な聞く力・話す力を高めるスキルトレーニングを行い、授業に生かす。



一人一台端末の活用

- ・ 調べ学習などの自主学習の時には、iPad を積極的に活用する。協働的な学びを実現するためのiPad の活用方法を研修で深める。

地域との連携

- ・ 地域コーディネーターの力を得ながら、教科の学習や総合的な学習の時間、クラブなどで、地域の方と関わったり、地域のことを学んだりする。
- ・ かの木学習発表会を通して、地域の方に総合的な学習の時間で学習した内容を発表する。
- ・ 150周年記念イベントを地域の方と共に盛り上げる。



学園との連携

学園で進める研修

1 園 3 校共通の研修テーマに加え、各園・校がサブテーマを設定し、そのテーマに向かって研修を進めていくことで、学園の目指す子どもの姿に近づけていく。年に 2 回合同授業研究会の機会を設け、学園の職員全体で研修に取り組み、園小・小中のつながりを見通した教育を行う。



目指す子どもの姿

みんなで深める

進んで関わり学び合う子

「言いたい」「聞きたい」「伝えたい」

自分で考える

自分がわかる



西山口小学校



令和5年度 我が校のものがたり

子どもの実態

- 各発達段階に応じた話す力、聞く力を高めるための取組をした結果、92%の児童が「聞くことができている」と答えた。
- レーダーチャートを用いて、自分の話す姿、聞く姿を振り返る習慣が付いた。
- △「ただ聞く」「なんとなく聞く」ことはできるが、「相手意識をもって聞く」「話を正しく最後まで聞く」ことが難しい。

研修テーマ

「聞いて 話して やりぬこう」

研修の取組

学びを実感する

- ・自分の言葉でまとめる時間の保障
- ・レーダーチャートによる
聞く力・話す力の振り返り

創像力 新たな価値の良さを知る

問いをもつ

- ・自分ごととして考えることができる学習問題
- ・具体的な子どもの姿をイメージ

創律力 自ら課題を見つけ、学ぶ

つなぐ

聞く

考えを深める

話す

創合力 友達と力を合わせて

- ・相手意識をもった話す力、聞く力を高めるための指導方法(特別支援の手立て)
- ・子どもの姿を思い描いた、単元構想の作成

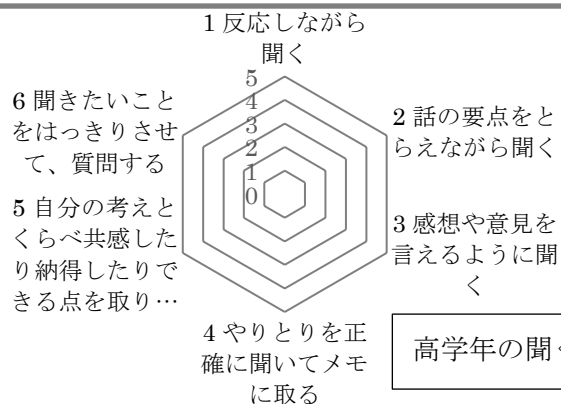
学びを支える学級づくり

聞く力、話す力の育成・言葉の指導

学力向上への特色ある取組

聞く・話すレーダーチャート

- ①毎月、聞く・話す姿を明文化された3の数値の姿をもとに、客観的に振り返り、ワークシートに記入をする。
- ②スプレッドシート（低学年はGoogleフォームに個人で入力をし、各クラスの実態をデータ化し把握する。
- ③各クラスの成果と課題を明らかにし、次の月のめあてを考える。



情報教育

- ・各教科、道徳、特別活動等において、ICT 機器 (i Pad) を活用した授業を行う。
- ・調べ学習の「テーマを決める→広く調べる→深く調べる→まとめる」の過程で、iPad を活用する。
- ・情報活用能力系統表（学園共通）や情報教育年間計画を活用し、基本技能の習得とプログラミング教育を通して ICT 機器を正しく使ったり、情報モラルについて考えたりする授業を行う。

読書指導

読書活動の充実

- ・朝活動での読書。
- ・年間 45 冊を目標に学校図書館の本を借りて読む。
- ・学校図書館の貸し出しリストをだん毎に印刷し、ファイルに綴じる。
- ・毎月家庭での親子読書。

図書ボランティアの協力

- ・朝活動での読み聞かせ。
- ・本の受け入れ、装備。
- ・掲示や図書の整理。

家庭学習

家庭学習カードには、本読みカードの要素に加え「家読」「親子読書」、掛東学園で取り組んでいる「わんわんわん」の要素を取り入れ、「わん…1日に1度、今日の出来事を家族で話す。」取り組みを行う。また、各学年の学習時間の目安を提示し、宿題だけでなく、iPad を用いたドリル学習やタイピング練習もできるようにする。学習・生活面の基礎基本の力を支えていく。



目指す子どもの姿



- ・相手意識をもって、聞いたり話したりする姿
- ・自ら考え、解決（ゴール）に向かっていく姿



上内田小学校

令和5年度 我が校のものがたり

子どもの実態

- 素直な子が多く、与えられた課題等に対して真面目に一生懸命取り組む。
- 課題に対して「やってみたい！」という思いをもち、仲間と一緒に学ぼうとする。
- △自分から「わからない」「解決したい」という思いをもち、発信する力を高めたい。
- △“自ら みんなと”考えを深めようとしたり、発展させようとしたりする粘り強さを育てたい。

研修テーマ

自ら学ぶ みんなと学ぶ授業づくり

～聴こう、伝えよう、つなげよう～

研修の取組

子ども主体の学びをつくるために「上内田小授業スタイル」をもとに研修を行う。

(1) 自ら学ぶ学習問題の工夫

- ◎「なぜ、どうしてだろう」「～したい」が生まれる学習問題の工夫
- 子どもの問いや発見を促す活動の工夫
- 問いの明確化と、解決させるための見通しをもたせる工夫

(2) みんなと学ぶ交流場面の充実

- ◎「伝え方・聴き方名人」を活用し、伝えあいのスキルを高める
- ICTを活用することによる考えの練合い、共有
- 子どもの思考の足跡が見える板書計画、板書の構造化
- 子どもの思考が整理できるワークシートの工夫、思考ツールの活用

「子どもの学びを見取る」ための土台（温かな学級風土）

- 学びに向かう姿勢づくり
- 学習規律づくり
- 学習環境づくり

学力向上への特色ある取組



めざす授業像の共有

- ・年度初めに、子どもたちと学び合う姿の具体を話し合い、「自ら」「みんなと」のめあてを設定する。
- ・教室内に掲示し、日々の授業で価値づけながら成長を確かめていく。
- ・時季ごとに振り返りを行う。

家庭学習の充実（自ら学ぶ姿の推進）

- ・家庭学習の手引きを配付し、家庭と連携して習慣づくりを行う。
- ・中学年以上は自学の日を設定し、自らの課題や探求したい課題に応じて学習内容を選び、取り組む。
- ・NIE ワークシートを活用し、初見の文章の読解力の向上を図る。

「伝え方・聴き方名人」の活用

- ・発達段階に合わせた「伝え方・聴き方名人表」の効果的な活用を図る。

- *時季ごとに
学びづくり部
から提案
- *子供の自己評価によるステップアップ

伝え方	聴き方
1. 伝言板の活用方法を工夫する。 （伝言板の活用方法を工夫する）	1. 相手の話を最後まで聴く。 （相手の話を最後まで聴く）
2. 相手の話を聴きながら伝える。 （相手の話を聴きながら伝える）	2. 相手の話を聴きながら伝える。 （相手の話を聴きながら伝える）
3. 相手の話を聴きながら伝える。 （相手の話を聴きながら伝える）	3. 相手の話を聴きながら伝える。 （相手の話を聴きながら伝える）
4. 相手の話を聴きながら伝える。 （相手の話を聴きながら伝える）	4. 相手の話を聴きながら伝える。 （相手の話を聴きながら伝える）
5. 相手の話を聴きながら伝える。 （相手の話を聴きながら伝える）	5. 相手の話を聴きながら伝える。 （相手の話を聴きながら伝える）
6. 相手の話を聴きながら伝える。 （相手の話を聴きながら伝える）	6. 相手の話を聴きながら伝える。 （相手の話を聴きながら伝える）
7. 相手の話を聴きながら伝える。 （相手の話を聴きながら伝える）	7. 相手の話を聴きながら伝える。 （相手の話を聴きながら伝える）

授業での一人一台端末の活用

- ・自分の考えを作ったり、まとめたりするための活用。
- ・友達に自分の考えを紹介したり比較したりするための活用。
- ・思考の深化につながる思考ツールとワークシートの活用
- ・掛東学園情報活用能力系統表をもとにしたスキルの定着。



目指す子どもの姿

- ・授業で自ら課題に取り組んでいる姿（自分の力で解決したい！）
- ・授業でみんなと課題に取り組んでいる姿（みんなで解決したい！）
- ・授業や家庭学習で学習内容を定着させ、次の課題に取り組もうと学びつづける姿

城北小学校

令和5年度 我が校のものがたり

子どもの実態

- 学習に対して、真面目に取り組む。
- 何事にも挑戦し、学ぶことへの意欲がある。
- iPadの使用に慣れて、授業で活用することができる。
- ▲意見を伝えることはできるが、友達と関わって課題を追究することが苦手。
- ▲授業で学んだことを自分の言葉で伝える力が弱く、活用力が乏しい。



研修テーマ

学びが深まる授業 ～対話を通して～



研修の取組

(1) 付けたい力・ねらいを明確にした授業

- ・学習指導要領や授業づくり指針が示す付けたい力に沿った目標を設定する。
- ・先を見通し、考えを収集・分析・整理・統合しながら、新たな価値を生み出そうとする力を引き出すような学習問題を提示する。(創像力)

(2) 主体的・対話的に学び合う中で自己の学びを深める「学び合い」の実現

- ・グループの話合いやiPadの活用等を通して、多様な他者と力を合わせ、様々な視点から見つめ、試行錯誤しながら協働しようとする力を付ける。(創合力)
- ・自分の考えの深化した内容や、意見の変化等を発表し合う場をもつ。
- ☆「学習過程可視化法」をもとに、個の考えの深まりを検証していく。

(3) 子どもが学びを実感できるふり返りの場の設定

- ・本時の目標や学習問題と整合性のある「まとめ」をする。
- ・自分を見つめ、次時への課題を見つけ、学び、行動し続ける力を付ける。(創律力)

学力向上への特色ある取組



【I チーム (ICT 推進リーダー) による ICT 研修】

各学年の ICT 推進リーダーによる ICT 研修を定期的に行い、iPad の操作から授業で活用できる機能までを伝達している。

昨年度より取り入れられたミライシードの活用事例などを紹介し合い、模擬授業で実際に使ってみるなど職員全体で交流しながら研修を深めている。(創像力育成のための、魅力ある授業づくりへとつなげる。)

【ICT を活用した授業】

ICT 研修を生かし、実践につなげる。個でつくった考えを、iPad を活用しながらグループや全体で確認し合ったり話し合ったりと、学びを深める手段として活用することで、創合力の育成を目指す。



【ユニバーサルデザインを意識した取組】

「じょうほく型スタンダード」をもとに、どの子どもにとっても学習に取り組みやすい環境作りを大切にしている。ステージごとに重点項目を定め、振り返りを行い次のステージにつなげている。

授業づくり		生活づくり	
共有化	1 目指す授業像を共有させている。 2 目指す授業像を具現化する方法をもたせている。	共有化	1 子どもが居心地のよい学習にしようとする意識の共有化。 2 学習作りへの参画意識を高める。
研修の話し方 難問や 指示	3 一人一人の学びのよさを認め、肯定的な姿勢を示す。 4 指示などは言葉(言語)だけでなく、顔や表情、身振り手振りを活用しながら、聞き取りやすい。 5 話す表情を高品質ながら、聞き取りやすい。 6 抽象的な表現、曖昧な表現を避け、具体例を挙げ、理解を促す。 7 生徒への声かけや声かけの仕方、個別の声かけの工夫を工夫している。	共有化	3 教室の整理・整頓を心掛け、不要な物を置かない。 4 床敷とその周りを、整理・整頓している。 5 授業の机の中やロッカーの使い方を決めて、整頓している。 6 教室の移動や下校前、朝の着替えの整理・整頓を指導している。 7 予定(1日・週・月)を掲示し、必要な学習用具やスケジュールを知らせている。 8 授業前、黒板がきれいに消されている。 9 授業開始時刻に床に座り、教科書などを見て待つことを指導している。 10 授業の開始前に必要な道具が準備されているか確認している。 11 開始時刻と終了時刻を守り、あいさつしている。 12 準備の準備がそろっているか、確認している。 13 iPadのルールを確認し、指導している。 14 床は、学校生活の仕方がわかる。
指導	6 授業の進め方を工夫し、生徒の理解を促す。 7 生徒への声かけや声かけの仕方、個別の声かけの工夫を工夫している。	共通 実践 項目	15 壁に貼った「生活の約束」を守って生活させている。 16 学年内での役割(清掃や給食)についての役割の分担・仕方が示されている。 17 宿題のやり取りや宿題の提出方法・場所が決められている。 18 一人一人の習字を指導している。 19 児童たちに居場所があり、認められているという安心感をもてるように工夫している。 20 授業のよさを積極的に発信している。 21 活動意欲を高めるような発言や不適切な発言には、望ましい発言の仕方を教示、訂正させている。 22 トラブルがあったときの解決方法を話し、児童同士でも解決できるように教えている。 23 多様な学習の仕方を評価している。 24 様々な学習の仕方を評価している。 25 様々な学習の仕方を評価している。
指導	8 生徒は教室の後ろの児童からも見えるよう 9 ノートにとりやすいプリントを認った言語 10 身体物・音声・絵・動画・ICT機器などを活用 11 学習で使うプリントやワークシートは、少 12 配慮し、読み取りやすいように	年間 を通して 高め てい く 項 目	22 授業の特色や長所を生かした活動を設定している。 23 トラブルがあったときの解決方法を話し、児童同士でも解決できるように教えている。 24 多様な学習の仕方を評価している。 25 様々な学習の仕方を評価している。
共有化	13 付いた力を伸ばし、単元や本時のほじ 14 授業のねらいに即して、授業を高度化して 15 授業のねらいに即して、授業を高度化して 16 主体的な学びや、まとめ(振り返り)を指導 17 自己の考えを深めたり高めたりするための 様々な学習形態を工夫している。	年間 を通して 高め てい く 項 目	22 授業の特色や長所を生かした活動を設定している。 23 トラブルがあったときの解決方法を話し、児童同士でも解決できるように教えている。 24 多様な学習の仕方を評価している。 25 様々な学習の仕方を評価している。
指導	18 気になる児童についてまずきを把握して 19 気になる児童のつまずきに対する支援を研 20 気になる児童のつまずきに対する支援を研 21 自ら質問できるように、わからないこと 22 一人一人の学びのよさを認め、個別につ	年間 を通して 高め てい く 項 目	22 授業の特色や長所を生かした活動を設定している。 23 トラブルがあったときの解決方法を話し、児童同士でも解決できるように教えている。 24 多様な学習の仕方を評価している。 25 様々な学習の仕方を評価している。

*0-CAPで年間を通して学年内などで情報交換しながらワンスタッフを重ねておこなう。

【学校と家庭との学びのつながり】

夏休み前と冬休み前のまとめテストに向けて、自分に必要な学習を考えて計画的に学習するなど、家庭とも連携して創律力を高めていく。

また、学習の連続性を意識し、子どもが次の「問い」に向かうことができるよう、反転学習の取組も進めていく。

【保幼小・小中の連携や接続】

保幼小連絡会や小中連絡会において、情報交換を密に行い連携を図っている。

冀北学園一貫教育研究会では、学園間のつながりを意識し、授業公開等を実施しながら校内研修の共有化を図っている。

また、スタートカリキュラムを実践し、共通理解のもと学びのつながりを意識した取組を行っている。



目指す子どもの姿

希望に向かい 未来を創る子

第一小学校

令和5年度 我が校のものがたり

子どもの実態

成果

- ・児童が端末を使った学習の効果を意識しながら、ICT を使用する姿があった。
- ・ICT を使用した共有の場を設けることで、以前より効果的に自分の考えを伝えたり、他者の考えを知ったりすることができたと実感する児童が増えた。(児童のアンケートより)

課題

- ・つけたい力に即した学習問題と、それを達成するための学習活動のねらいに迫る端末活用を工夫することで、より深い学びの実現をすること。

研修テーマ



「なぜ?どうして?を大切に考動する子」

～一人一台端末の活用を通じた情報活用能力の育成～

研修の取組



研修の視点

『学習活動のねらいに迫るための端末活用になっていたか』

1 基本的な授業力の向上

- ・学習問題の設定・学習形態の工夫
- ・単元計画の充実・教師の立ち位置

2 学習活動と端末の効果のベストミックス

- ・学習活動ねらい+端末にできること



効果的な活用

学力向上への特色ある取組

～一人一台端末の活用～

令和3年度から導入したタブレット端末を有効的に活用できるよう、研修を深めた。

前年度は「一人一台端末への挑戦」を目指し、取り組んできた。意図的に ICT を使うことを意識してきた成果が出始めた。「使う」から「使いこなす」への移行を目指し活用していきたい。



～ICT を効果的に使った協働学習の実践～

ICT (iPad) は可視化、個別化、共有化など多くの機能が備わっている。より効果的に活用するための実践が各学年で行われている。

令和5年度は「一人一台端末のさらなる挑戦と探求」と題し児童・教師共にスキルをさらに磨いていける実践を行いたい。



～家庭と繋がるために～

第一小学校では「かけがわ学びのグランドデザイン」や「かけがわ型育ちと学びのジョイントブック」などを参考にしながら家庭との繋がりを大切にしている。例として、1年生ではスタートカリキュラムを作成し、様々な芽生えを支援できるようにしている。また家庭学習で「10秒大好きぎゅう」を取り入れるなど、各学年の発達段階に合わせた内容になるよう配慮している。

目指す子どもの姿

～なぜ?どうして?を大切にして考動する子～

発達段階に応じて育成すべき情報活用能力の実態をアセスメントシートを用いて明らかにし、授業において一人一台端末を活用して、それらを意識的に指導することで目指す姿に近づいていきたい。

第二小学校

令和5年度 我が校のものがたり

子どもの実態

- 令和4年度 研修テーマ「根拠をもって判断し表現する力を育成する授業づくり」の成果と課題
- 既習事項の掲示など根拠を見出す材料を教師が工夫することによって、子どもたちは根拠をもって自分の考えをつくることのできる場面が増えた。
 - 根拠を基にした考えを他者との対話で深める場面を授業の中で位置付け、何度も話し合う経験を積んだことで、子どもたちは進んで自分の考えを伝えたり、「なるほど。」「何で?」と反応したりする場面が増えた。
 - ▲他者との対話の場面では、根拠を基にした自分の考えを相手に伝えるだけで、学習問題に迫る練り合いがまだ十分にできていない。
 - ▲与えられた課題に一生懸命取り組むが、子どもたちが自分から夢中になって課題を追究する姿を更に引き出したい。



研修テーマ

「自分から根拠をもって考えをつくり、

みんなで学びを深める授業づくり」



研修の取組

【研究仮説】

- ア 子どもが自分から考えたくなるような工夫をしたり、
 - イ みんなで考えを深めるための対話等を設定したり
- することで、自分から根拠をもって考えをつくり、みんなで学びを深める力を育成することができるだろう。

【内容】

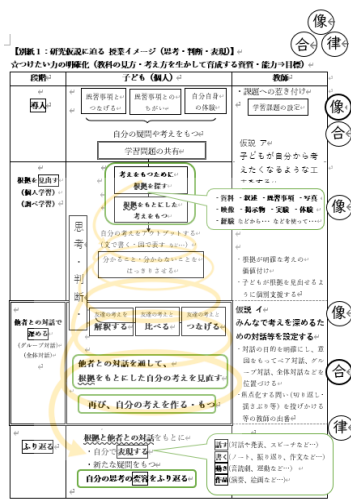
- ・全職員が、自分が選んだ教科で、年1回授業公開を行う。
- ・中心授業は、全職員が参観する。子どもの表れを付箋に書き込む。
- ・事後研修では、学習過程可視化法を用いて、子ども一人一人の表れから、本時の目標を達成できていたかどうかを検証する。成果と課題、解決策を話し合い、その後の授業改善に生かしていく。
- ・ICT研修（年5回）を行う。希望するテーマごとにチームを分け、日々の取り組みや悩みなどを話し合い、ICTの効果的な活用の仕方を検証していく。



学力向上への特色ある取組

授業イメージ図の共有

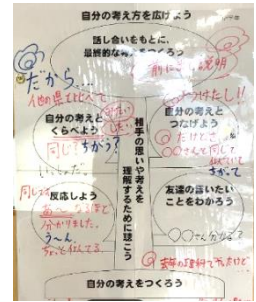
研究仮設に迫る授業イメージ図を作成し、全職員で共有している。また、本市の「3つの創る力」を位置付け、どんな場面で力を発揮させるのかを具体的に示している。



学び方の木の活用

人の心を大切に相手の思いや考えを理解し、みんなで学びを深める力を高めるために、今年度も「学び方の木」を各学級に掲示し、自分の考えを広げるための段階や目指す姿を子どもたちと共有している。

授業で表れたよい姿を具体的に書き足したり、認めたりしていくことで、子どもたちの学び方を価値付けている。



一人一台端末の活用と ICT 研修

効果的な ICT 機器の活用を目指し、ICT 機器を授業の中で積極的に取り入れ、授業改善に取り組んでいる。

校内研修では、テーマごと4つのチームに分かれて ICT 研修を行っている。各自の実践や課題に感じていることを報告・協議し、有効な活用の仕方を検証していくていく。



家庭学習の充実

「家庭学習の目的とポイント」「家庭学習でステップアップ」の資料を全児童に配付し、家庭での学習習慣と学習内容の定着を図っている。

3～6年生には、週末の家庭学習に自主学習を取り入れ、授業で学習した内容を復習したり、更に発展的に追究したり、写真や表などを入れて根拠をもとにまとめたりするなど、子どもが自ら学び、進んで問題解決に取り組む場面を位置付けている。

かけがわ型小中一貫カリキュラムの活用

郷土の偉人や文化等を取り入れた掛西学園かけがわ道徳系統表を活用している。今後は更に「かけがわ型小中一貫カリキュラム」を活用し、発達段階や教科の系統性を意識した授業改善を図っていく。



目指す子どもの姿

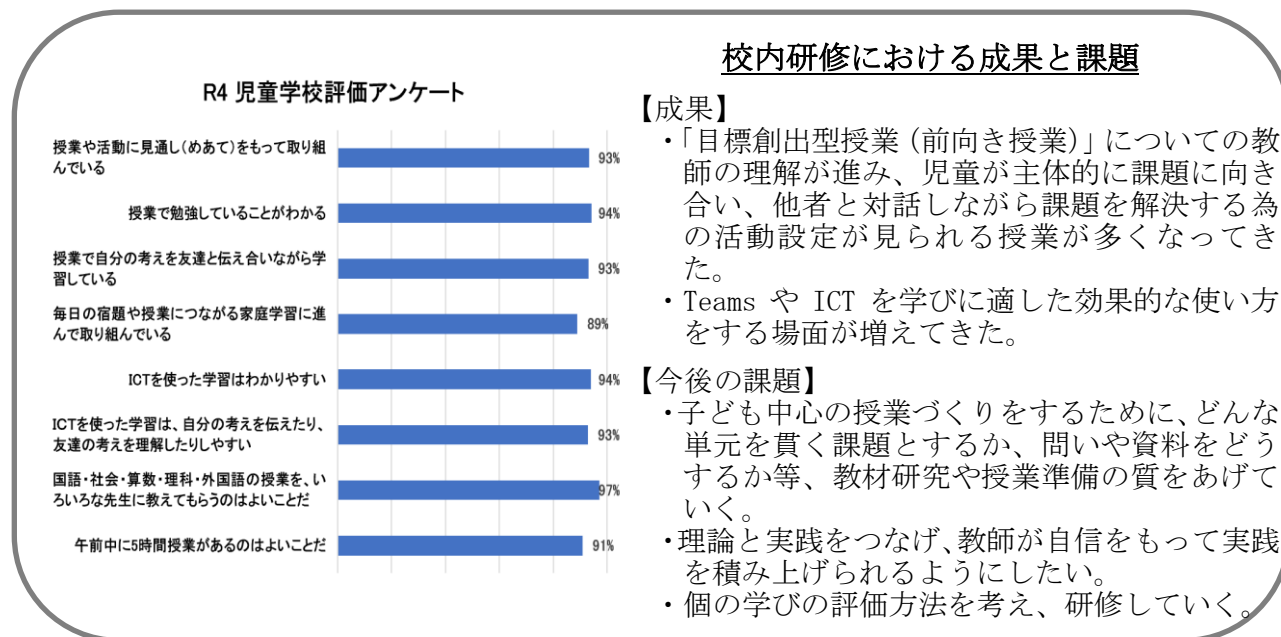
【自分から根拠をもって考えをつくり、みんなで学びを深め合う子ども】

- ・子どもの「あれ?」「なぜだろう?」「どちらかな?」「やってみよう」という思いを引き出し、既習事項や生活経験をもとに根拠をもって考えをつくり、自分から進んで問題解決を図っている。
- ・子どもたちが自分の考えを他者と話し合う活動を通して、友達の考えと比べ、議論をする中で、みんなで学習問題に対する答えを考え、表現して(まとめて・伝えて)いる。

中央小学校

令和5年度 我が校のものがたり

子どもの実態



研修テーマ

学びを深める子の育成
～子ども中心の授業づくりを通して～

研修の取組

- ・教師が『目標到達型授業(後向き授業)』から脱却し、目標到達に至る対話の過程で新たな問いが生まれ、目標を再設定しながら学び続ける『目標創出型授業(前向き授業)』へと観の転換をし、実践を増やしていく。(外部講師の招聘、研究授業等)
- そのことにより、本校の子どもにつけたい資質・能力である「思考力」「問題解決力」「意思決定力」「コミュニケーション力」の育成を目指すための単元構想の工夫(単元デザイン)に取り組む。(教科チーム研修)
- ・一人一台 iPad を生かし、授業における ICT 活用の研究を進める。(DX 推進部)
- ・教科チーム(国・社と英・算・理・特支)に所属し、教科チーム研修で授業改善に取り組むことにより、教科の強みや専門性を生かした授業を展開する。→子どもの学力向上につなげる
- ・全体研修や日々の学年研修等で、各教科部の取組を報告し合い、全職員・学年間の共通理解を図る。(Teams で情報の共有)

学力向上への特色ある取組

高学年教科担任制の導入

- ・5・6年生では国語、社会、算数、理科、外国語、家庭科、音楽の7教科で教科担任制を導入している。(4年生も一部導入)
- ・3学級の授業を担当することで、教材研究や授業準備を効率的に行うことができ、授業改善にもつながっている。
- ・「学級担任」から「学年担任」への意識の転換で、生徒指導面でも成果を上げている。

教科チーム研修

国語・算数・社会と英語・理科・特支の5つの教科チームを設定。高学年は教科担任制で担当する教科チームに所属する。1～4年・級外職員もいずれかのチームに所属する。

ICTを活用した授業づくり

- ・前面ホワイトボード・可動式プロジェクター、全館無線LAN環境の有効活用。
- ・児童の対話の質の向上をねらいとした、ICT活用研修の推進。
- ・デジタル教科書の利用研究。
- ・授業支援ソフトの導入。



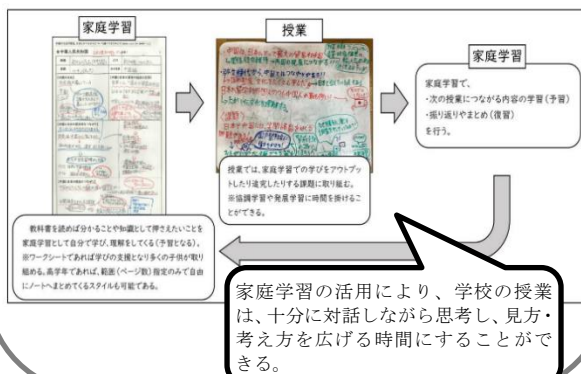
1年生活科:iPad ミライシードをつかって自分の考えを伝え合う姿

◇iPad 一人一台端末の活用◇

- ・登校したら、授業準備として各自、机に置く。子どもは授業において、調べ学習に使用する等、必要に応じて活用する。
- ・ドリル学習を個々の能力に合わせて活用する。
- ・端末持ち帰りによる、学習ドリルと連動した家庭学習を行う。
- ・活用能力向上のため、休み時間や下校前等の隙間時間を使ってキーボード入力練習を行う。
- ・クラウドを利用し、個の学習を全体で共有したり、学習記録をデータとして蓄積したりする。

授業とつながる家庭学習

- ・次の授業の課題について、内容をつかみ、家庭で「調べる」「考えをもつ」「既習の内容の復習」等の学習準備をし、授業ではその知識や技能の活用ができるようにする。
- ・授業後には「まとめ・振り返り」「復習」「新たに生まれた問いに向けた考え作り」等を行い、次の授業へつなげていく。



コミュニケーショントレーニング

◇ねらい◇

人間関係を築くコミュニケーションのあり方を身に付けさせると共に対話の素地を養う。よりよい話し方や聴き方を意識化する。(特に聴き方の指導に重点を置く。)

- ・活動時間は10分。週に1回朝活動等で行う。
- ・一つの話題について、話し手役と聴き手役を交代しながら話したり、聴いたりする。

小中一貫教育カリキュラムの活用

- ・掛川市として重点的に取り組みたい指導項目を捉え、具体的な活動・発問例を参考に授業改善を図る。
- ・掛西学園研修会等で、園と小、小と中の生徒指導の連絡を取り合い、学園としての特色ある取組を話し合う。
- ・小1では、スタートカリキュラムを意識した活動を取り入れ、園と小の滑らかな接続を行う。

目指す子どもの姿

「子ども中心の授業」を通して

- ・「自分で答えをつくる」姿
- ・「他者と考えながら関わり、自分の考えを少しずつ深める」姿
- ・「学んだことから次の問いを生む」姿
- ・「答えや答えの出し方について、人の違いに価値を置く」姿

曾我小学校

令和5年度 我が校のものがたり

子どもの実態

- ICTの活用が広がり、学び合いや、個に応じた支援、反転学習などに生かされている。
- 個人のためや目指す授業の振り返りをする中で、自分の学びを見つめるきっかけになった。
- 学習意欲や、課題意識をもって授業に参加する子が少ない。
- すぐにあきらめてしまったり、学びの実感がもてなかったりしている。

研修テーマ

主体的に学ぶ子を育てる授業づくり

研修の取組

研究仮説：協働的な学びにおいて学び合いを進め、教師が子どもをつなぐ問い返しをして、子どもが自分の考えをもつことで、学びの実感が積み重なり、主体的に学ぶ子が育つだろう。

【内容】

- ・「学び合いを位置付けた単元構想」「思考を働かせ、主体的に学ぶための課題設定・課題への導き方」「子どもをつなぐ問い返し」の3つの柱に力を入れて取り組んでいく。
- ・「思考を働かせ、主体的に学ぶための課題設定・課題への導き方になっていたか」「教師の子どもをつなぐ問い返しができているか（全員が自分の考えをつくることのできたか）」の視点を、子どもの姿で話し合い、事後研修を深める。

【方法】

- ・算数を窓口教科として、全員1年に1回、研究授業を行う。
- ・有効だった学び合いの手立てを日常的に取り入れる。

学力向上への特色ある取組

個人・学級の振り返り

- ・児童に、達成感や成長の実感をもたせ、学びの意欲の向上につながる振り返りの時間を設定する。
- ・教師が目指す授業像を明確にし、学級の課題を明らかにし、より良い指導につなげる。

トークトレーニングの実施

- ・毎週金曜日の朝活動で10分間、コミュニケーションスキルの向上を目指したトレーニングを行う。
- ・「聞くこと」に重点を置き、楽しい雰囲気の中で実施する。教師は良い聞き方をたくさん見つけて褒める。

全員が自分の考えをつくるための学び合い

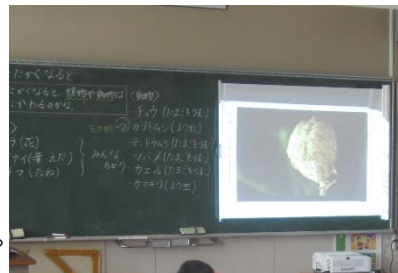
- ・授業の前半に行い、時間の目安は、国語5～10分算数5分程度。
- ・机は向かい合わせる隊形で、学び合いの目的とルールを確認しながら進める。
- ・子どもをつなぐ問い返しをし、学びの実感が得られるようにする。

小中一貫教育に向けて

- ・掛西学園の研修共通テーマである「聞く・話す」の徹底に向けて、週に1回、話すコミュニケーショントレーニングを行う。
- ・6年生の中学進学に向けて、子どもたちが授業や生活について、知る機会を与える。

ICTの有効活用

- ・全学級にプロジェクターとスクリーンを常設。
- ・児童のiPadと同じ画面を提示したり、大きく映したりすることで視覚支援を促す。
- ・反転学習など積極的なiPadの活用を図り、さまざまな使い方を探る。
- ・ミライシードの活用を家庭にもお便り等で知らせ、家庭学習とつなげる。



目指す子どもの姿

主体的に学ぶ子

- ・自分で粘り強く考える姿。
- ・他者と関わりながら学びを深める姿。
- ・学んだことから、新たな疑問が生まれる姿。
- ・学びの実感を得て、さらに学ぼうとする姿。



桜木小学校

令和5年度 我が校のものがたり

子どもの実態

- 単元の目指す姿に向かおうとする意欲的な姿が見られた。
- 課題解決に向けて粘り強く取り組む姿とは、まだ言えない。

研修テーマ

自ら学ぶ授業

～学んだことをいかして、課題を解決する力の育成～

研修の取組

研究仮説:対話したくなる課題を設定し、ルーブリックを子どもと共有すれば、学んだことをいかして課題を解決する力が育つだろう。

【内容】

1 子どもと共有するルーブリック

ルーブリックを子どもと共有することで、「目指す姿」や「学習のゴール」が具体的に分かり、教師も子どもも見通しをもって学習に取り組みやすくする。

単元のルーブリックでは、「単元において育成する資質・能力」と「目指す姿」を明確にし、本時のルーブリックでは、子どもの実態に合わせて観点を段階的に示し、「目指す姿」を明確にする。
(創律力の育成)

2 対話したくなる課題設定

目的をはっきりさせた対話を単元の中に意図的に位置付け、子どもが必要感をもてるようにする。
(創合力の育成)

振り返りの時間を確保し、子ども自身に何が身についたのかを明確にさせる。
(創像力の育成)

学力向上への特色ある取組

自分との対話の時間を大切にする

- ・自分の考えを文字や図などで残し、思考過程が分かるようにする。
- ・自らの学習過程を客観的に捉え、うまくいったところはどこか、うまくいかなかったところはどこかを振り返り、学びをコントロールする。



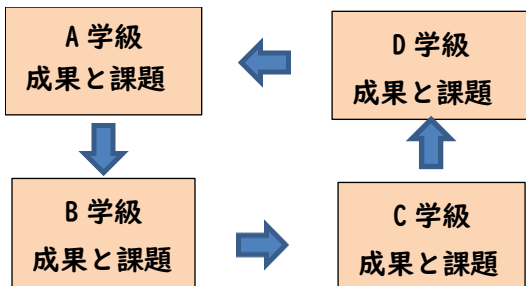
友達との対話で思いを伝え、他を認める

- ・友達の中で心に残ったところはどこか、それはなぜかを話して伝える。
- ・対話の中で、良かったことは何か、どんなことを考えたかをはっきりさせ、伝える。



複数学級で授業改善の視点をすぐ生かす

- ・1学年複数学級ある本校だからこそ、授業後に明確になった授業改善の視点を、他学級の授業にすぐに生かす。



ICT を活用して学ぶ

- ・思考ツールとして ICT を活用し、自分の学びを整理したり、学びを深めたりする。



目指す子どもの姿

自ら学ぶ姿・学んだことをいかして、課題を解決する姿

- ・課題解決に向かって粘り強く取り組む姿。
- ・粘り強い取組の中で自らの学習を調整しようとする姿。

和田岡小学校

令和5年度 我が校のものがたり

子どもの実態

- 理由や根拠を明確にしながら自分の考えをもつことができた。
- 自信をもち、積極的に自分の考えを友達に伝えるようになった。
- △自分の意見と友達の意見を比較し、練り合う話合いが苦手。
- △基礎的な知識・技能が低く、語彙も少ない。それゆえに、自分の思いをうまく言葉で表現することが苦手。



研修テーマ

理由や根拠をもち、対話を通して問題解決を図る児童の育成
～対話を通して資質・能力を育成する授業を目指して～



研修の取組

研究仮説

対話の生まれる学習課題を設定したり、考える材料や視点を明確にして、用意したりすることで、対話を通して問題解決を図る児童の育成につながるだろう。

研究内容

「児童が理由や根拠を話し合い、問題解決できるように仕掛ける」

①対話の生まれる学習課題・学習問題を設定する。

→対話が必要なレベルの問いを提示することで、児童にとって必要感のある対話となるようにする。また、単元構想を練り、児童が見通しをもって取り組める学習課題・問題であるようにする。

②問題解決につながる材や活動を工夫する。

→個別最適な学びの充実と協働的な学びの充実を図る。そのために、問いの解決の手助けとなる材を用意したり、学習内容にあった学習形態を考えたりと教師が意図的に工夫する。また、その際に児童が、各教科の見方・考え方を働かせられるようにする。

学力向上への特色ある取組



学級で話し合いができる土台づくり

- (1) 研修内容に合わせた「めざす授業像」
 - ・「理由や根拠をもって話し合う」ことを教職員が把握した上で、各クラスでどんな授業をしたいのかを話し合い、目標を設定する。
- (2) みんなの手本となる発言を見える化する「ことばの宝箱」
 - ・児童が友達の意見とつなげる発言や比較する発言、反応など対話による問題解決につながる言葉を短冊カードに書き、教室に掲示することで価値付けをする。

基礎的な知識・技能及び語彙力を身につける

- (1) 個に応じた指導～わくわく学習タイム～
 - ・国語に焦点を当て、新しい学びに必要な既習事項の確認を行い、レディネス形成を確実に行う。
- (2) たしかめテスト
 - ・長期休業前に、学力の定着を確認する。結果に基づき、補充学習を行う。
- (3) 月3回程度のコグトレの導入
 - ・視知覚認知向上を図る。

自分の思いを伝える話し方、聴き方を育てる

- (1) 対話表（和田岡モデル）の活用
 - ・学校共通で対話表を活用し、定期的に自分の対話を振り返る時間を設ける。
- (2) 見せ合い授業
 - ・他学年の授業を児童が参観する時間を設け、対話についてのアドバイスをし合ったり、よりよい対話の姿を見付け、クラスで実践したりするようにする。

一人一台端末の有効な活用

- (1) 家庭と学校の学びをつなげる
 - ・反転学習を取り入れる。
- (2) 自分の意見を明確にする
 - ・立場の視覚化、意見の共有。

かけがわ型小中一貫カリキュラムの活用

- (1) 単元計画作成時の活用
- (2) 指導案検討時の活用
- (3) 授業改善時の活用



目指す子どもの姿

自分が考えた理由や根拠をもとに話す姿

原谷小学校

令和5年度 我が校のものがたり

子どもの実態

- 前向きに学習に取り組む児童が多い。(授業が楽しい、授業がよく分かる)
- 児童が1人1台PCを学習に積極的に活用できるようになった。
- △学習における知識・技能の活用、応用力が不足する。
- △学力格差が大きい。

研修テーマ

自覚的に学ぶことができる子

研修の取組

振り返りの充実

- ・「どんな力が身に付いたか」をはっきりさせる。
- ・「どんな力が身に付いたか」を振り返る手立てを考える。

見通しをもつための手立ての工夫

- ・「何を学ぶのか」をはっきりさせる。
- ・「何を学ぶのか」を児童と共通理解する手立てを考える。

上下学年の指導事項を意識した単元計画

- ・単元計画作成の際に該当学年だけでなく、上下学年も意識する。



学力向上への特色ある取組

◆「話し方・聴き方指導」の徹底

- ・話し方指導
声の大きさ
話の繋げ方
特活、総合との繋がりを意識する。
- ・聴き方指導
姿勢
うなづく
反応する

◆学習習慣の確立

- ・正しい姿勢指導（腰骨ピン）
- ・持ち物の約束
- ・ノート指導
学習課題を赤、まとめを青

◆中学校教員による交流授業

- ・原野谷中英語科教員との T.T 授業
（6年生 毎週月曜日）
新掛川スタンダードの活用
デジタル教材を活用した原田小との連携

◆一人一台の iPad の活用について

- ・学年に応じた iPad の活用
低学年→写真を撮る、Jamboard でイラストを動かす、絵を描く
中学年→Classroom にコメントする、google ドライブを活用する
高学年→スライドにまとめる、スプレッドシートやドキュメントにまとめる
- ・思考ツールの活用

↓
習得した知識の活用
話し合い活動の充実

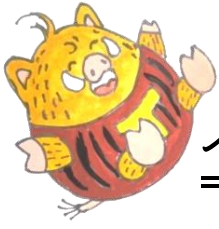
◆家庭学習の充実

- ・「自分ごと」としての家庭学習
なぜ家庭学習をするのか考える。
与えられた「宿題」から自分で考える「学習」へ
- ・学年や発達段階に応じた学習内容
低学年 →基礎基本を固める
中～高学年→自分で考えて自分に合った学習方法で取り組む
- ・「学ぶ楽しさ」を味わうことのできる家庭学習（「けテぶれ学習法」）



目指す子どもの姿

「何を学ぶのか」、
「何を学んだのか」を
理解しながら学ぶことができる



原田小学校

令和5年度 我が校のものがたり



子どもの実態

子どもの実態

○真面目で素直 ○何事も一生懸命 ○上級生と下級生の仲がよく、まとまっている
▲コミュニケーション力 ▲たくましさ

令和4年度の校内研修の成果・課題

<成果>

- 学び合う授業の基盤づくり
 - ・ねらいの明確化
 - ・単元構想の工夫
 - ・ICT を活用した授業づくり
- 授業の展開方法や学習形態の工夫

<課題>

- ▲対話などの交流活動の質の向上
 - ・出し合いや報告のみの対話
 - ・ペアや班別対話後の更なる深め方
 - ・対話スキルの向上の必要性
 - ・対話や振り返りの焦点化

研修テーマ

学び合うことができる授業づくり

研修の取組

研究仮説

子どもの思考に沿った単元構想の工夫、ICT を効果的に活用した交流活動の充実を意識した授業づくりを行うことで、共に学び合い、高め合う姿が見られるだろう。

研修の柱(1) 子どもの思考に沿った単元構想の工夫

子どもが考えたくてたまらない、話したくてたまらなくなるような、子どもの思考に沿った単元構想の工夫（単元を通した学習課題の設定や1時間1時間の学習問題の工夫、授業と家庭学習をリンクした学びの連続性など）をする。

研修の柱(2) ICT を効果的に活用した交流活動の充実

子どもの思考を広げたり深めたりするための一つの手立てとして、一人一台端末を効果的に活用し、主体的で対話的な深い学びとなるよう子どもたちの交流活動を充実させていく。

学力向上への特色ある取組



「目指す授業像」の追究

- 学級担任と児童が、目指す授業の姿を共有し、合い言葉となる「目指す授業像」を設定する。
- 「目指す授業像」を定期的に振り返り、PDCAサイクルの中で目指す姿に向けて追究する。
- 「目指す授業像」実現に向けて自分ごととしてとらえ、主体的に取り組むことができるようにする。



地域教材の積極的な開発と活用

- 「原田が一番」の思いのもと、地域人材を積極的に活用する。
- 地域を材とした「夢原里学習」(総合的な学習の時間)を行う。
- 「本物」との出会いを大切に、積極的にリアルな体験活動を行う。



原谷小との小小交流

- 年間 14 回の交流活動の実施
- 9月までは多くの友達と関わり学ぶことの楽しさを味わい、10月以降は多様な考えの中で学び合い、考えを深めることの楽しさを味わうことを目指す。



一人一人が
主役の授業づくり

「伝える」「受けとめる」を重点とした学びづくり

- 「たくましさ」と「コミュニケーション能力」の向上を目指し、「伝える」(言うく伝える)と「受けとめる」(相手の思いをくみ取りながら聞く)を重点とした授業づくりを行う。
- 「学び対話表」を活用し、ステージ毎に振り返りを行う。

よのよの学校「学ぶ対話表」	
レベル① まとめる・磨き出す	自分の考えや思いを伝え、相手の考えや思いを聞き出す。
レベル② 比べ合う	自分の考えや思いを伝え、相手の考えや思いを聞き出す。相手の考えや思いを自分の考えや思いと比べて、自分の考えや思いを深める。
レベル③ 出し合う	自分の考えや思いを伝え、相手の考えや思いを聞き出す。相手の考えや思いを自分の考えや思いと比べて、自分の考えや思いを深める。相手の考えや思いを自分の考えや思いと比べて、自分の考えや思いを深める。

目指す子どもの姿



学校教育目標

夢を抱き りりしく歩む 原田っ子



西郷小学校

令和5年度 我が校のものがたり

子どもの実態

○決まっていることや与えられたことに対しては、とても真面目に取り組むことができる。

- ◆自分ごととして考え、自分の考えをもつところまではできても失敗を恐れ、その考えに自信をもつことができずに言えないことがある。
- ◆友達との対話の場面では、伝え合って終わってしまい、話を広げたり、深めたりすることに課題がある。



研修テーマ

対話によって考えたことを深められる子の育成
～子どもたちが自ら学び続ける授業づくりを通して～



研修の取組

- 1 自分が担当する教科を窓口教科とする。
- 2 学びづくり部や情報推進部と連携して「対話」や「ICT活用」を意識した授業づくりをしていく。
- 3 研究内容(つなぐための手立て)
 - (1) ねらいの明確化(西郷型指導案)
 - ・単元において育成する資質・能力の三つの柱を明確にする。
 - ・単元の評価規準を作成する。
 - ・子どもの姿を思い描いて、単元構想を作成する。
 - (2) 考えを深めるための工夫
 - ・考えたくなる発問をする。
 - ・子どもに自分の考えをもたせる。(時間、場の確保)
→主体的な学び＝「創律力」の育成の場の一つに
 - ・ねらいを目指した対話の場の設定。(ペアやグループの構成・対話の焦点化)
→対話的な学び＝「創合力」の育成の場の一つに
 - (3) 振り返り
 - ・振り返りの時間(教科のまとめ)を確保し、子ども自身に何が身に付いたのかを明確にさせる。
→「創像力」の育成の場の一つに
 - (4) つながる姿の見取り
 - ・ICTの活用
 - ・評価



学力向上への特色ある取組

【対話を意識した授業づくり】

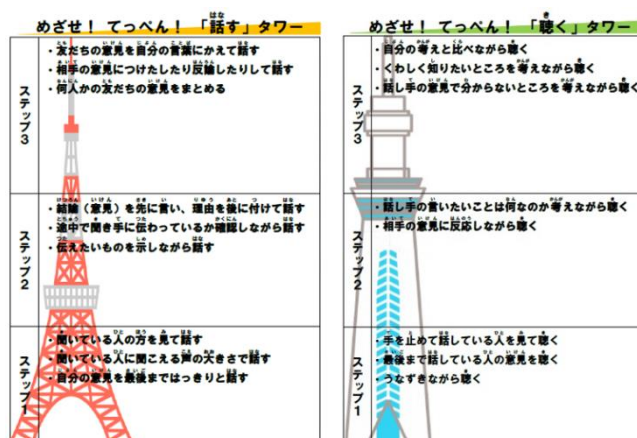
- ・話す力・聴く力を高める。
(話す聴くタワーの活用)
- ・「対話タイム」毎週火曜日朝活動で実施する。
- ・語彙を増やすために、読書をする習慣を身に付ける。

【各教科での単元構想の工夫】

- ・子どもたちが自分たちの力で課題を追求する時間を各教科の単元に位置づける。
- ・学年会で単元や授業構想を検討する。
- ・子どもが課題を追求し、表現する場を設ける。

【基礎基本の定着】

- ・授業の中で反復練習を位置付ける。
- ・学習の振り返りを重視する。
- ・「学びの6か条」の定着を図る。(筆箱の中身、忘れ物なし、授業準備等)
- ・授業の内容と結びつけた家庭学習を出し、予習、復習をする学習習慣を身に付ける。
- ・「家庭学習の約束」を配布し、家庭への協力を呼びかける。
- ・「いえ読」を呼び掛け、家庭読書の定着を図り、読書好きな子を増やす。



【一人一台 iPad の活用】

- ・iPadを身近な場所に常におき、いつでも使えるようにしておく。
- ・ミライシードやクラスルームを活用し、質問したり、ワークシートや資料などの配付物を配ったりする。
- ・情報推進部をつくり、業務改善チームと授業改善チームに分け、ICTを活用し、業務や授業の改善を目指す。

【小中の連携】

- ・冀北学園で「冀北の教え5か条」を決め、統一した指導を図る。(あいさつ、思いやり、ルールを守るなど)
- ・学園内で年1回の授業公開を行い、情報交換を行う。



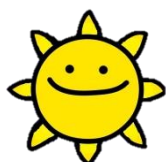
目指す子どもの姿

ふるさとを愛し 未来にはばたく子

倉真小学校

令和5年度 我が校のものがたり

子どもの実態



- 与えられた課題に対して一生懸命に取り組むことができる。
- 人間関係が良好で、協力して学ぶことができる。
- 意欲的に発表できる子が多い。
- 受け身の姿勢になりがちで、自分の力を伸ばす力が弱い。
- 多様な考えが生まれにくく、学びが深まりにくい。

研修テーマ

「～たい」でいっぱい授業
～ICT を効果的に取り入れた魅力的な単元構想を通して～

研修の取組

【研修内容】

「～たい。」を引き出すような単元構想を設定することで、自分で考える楽しさや自分の考えをもつよさを実感させ、学びに対して主体的に取り組めるようにする。(創律力)

【共通実践】

- ・学習課題→学習問題→まとめを柱とした授業をする。
- ・「学習課題…白枠。学習問題…赤枠。まとめ…青枠。」を統一する。
- ・「～たい」を引き出す仕掛けを積極的に入れる。
- ・授業の中で、ICT を効果的に取り入れていく。
- ・単元のゴールを設定し、単元構想を練る。
- ・規律はあるが、リラックスできる学級作りを土台とする。

【研修体制】

- ・A 研修(全体)と B 研修(学年部)を実施し、事前研修と事後研修で成果と課題について話し合う。
- ・年間を通して、単元のゴールシートを活用する。
- ・公開授業後、成果や課題についてまとめたものを全職員に配付する。
- ・一人一台端末の効果的な活用についての研修を実施する。
- ・個人研修を設定し、教材研究の時間を確保する。

学力向上への特色ある取組

基礎・基本 の力

- 朝学習による基礎学力の積み上げを図る。
→個の実態に応じて必要な学習を行い、「伸びた。」「できるようになった。」という達成感が実感できるようにする。
- 冀北テスト（年4回）を実施し、国語と算数の定着を図る。
→テスト範囲や内容を伝え、計画的に学習を進められるようにする。
- 話し方・聴き方ステップ表の活用により、学び合いの土台の力を付ける。

自ら学ぶ力 と 家庭学習

- 家庭学習の最終的なねらいを「自分の学力を伸ばす力を付ける。」ことと設定し、低学年・中学年・高学年の発達段階に沿った家庭学習にする。
- 家庭学習のねらいを保護者とも共有し、協力を得る。

冀北学習

- 倉真地区のよさを再発見するようなテーマを設定する。
- 地域の方や自然を生かし、体験を伴った探究活動を実施する。
- 「冀北発表会」で学習の成果を地域や保護者に発信する。

読書活動

- 朝読書（週4回15分間）を実施する。
- 読んだ本を読書ファイルや読書しおりを使って記録する。
- ノーメディアカードを活用し、家庭での協力を得る。

目指す子どもの姿 主体的に学ぶ姿 → ～たいでいっぱい姿



土方小学校

令和5年度 我が校のものがたり

子どもの実態

- 学習課題や単元のゴールの姿を提示することで、どのように考え、どのような力が付くかなど先を見通し自分ごととして考える子どもが増えてきた。
- つなげる言葉を使うなど、友達と関わり合わせた発言をする子どもが増えた。
- ICTの活用をすることで、自分の考えを表現できる子どもが増えた。
- 子どもたちが自分ごととして学習を進められる単元構想、学習課題、問題の吟味が必要であった。
- 子どもたちの発言だけで、考えを深めることができない。



研修テーマ

対話を通して考えを深める授業
～自分から考え、関わりたくなる単元構想と学習問題の工夫～



研修の取組

未来を切り拓く3つの創る力

「創像力」考えが深まる問いや場面を設定した単元構想の工夫

手立て①教科の見方・考え方を取り入れた学習課題の設定。

手立て②単元のゴールや付けたい力の明確化。

手立て③自分ごととして取り組む魅力のある学習問題の設定。

「創合力」対話を通して、考えを深める

手立て①“つなげる言葉”や“考えを深める言葉”の充実。

手立て②考えを深める方向に導く、教師の手立て。

手立て③ICTの活用による、子どもたちの意見の共有や比較。

「創律力」振り返りをする中で、自分自身の力の伸びを知り、

調整し、新たな課題を見つける。

手立て①振り返りの視点を与えるための3つのカエルの活用。





学力向上への特色ある取組

授業で使いたい言葉

- 深める言葉：例えば……。まとめると……。もし……。だったら。
- つなげる言葉：……。さんと似ている。……。さんと同じで。……。に付け加えて。……。さんと違って。

i Pad ミライシードの活用

- オクリンク：子どもたちの意見を集約、共有、比較する。学習の記録を蓄積していく。
- ムーブノート：考えを比較、分類。
- ドリルパーク：基礎基本の定着。

家庭教育とのつながり

- 基礎基本の徹底：復習的な内容を中心にして行う。
- 反転学習：家庭学習で理解し、学校で定着、活用させる。
- 自主学习：自分から学習内容を選択し、定着や追究をする。

振り返りで3つのカエルを活用

- できたわかったカエル：何が分かったのか、何ができるようになったかを振り返る。
- よくかんガエル：どのように考えが深まったか、どのように考えが変化したかを振り返る。
- 次につなゲール：次はどのように考えたいか、どのように使えるかを振り返る。

城東学園一貫教育カリキュラム

- 外国語活動：外国語活動と外国科における一貫教育カリキュラムを実践する。
- 道徳：地域素材を題材にしたかけがわ道徳を実践する。
- 総合学習：身近な地域を題材にすることで城東地区を知り愛する心を育てる。

縦割り活動

- ブックトーク：おすすめの本を紹介し合う。
- マット、鉄棒週間：ペアのチャレンジしたい技の見本を見せたり、技のポイントを教えたりする。



目指す子どもの姿

自分から～ふみ出そう・関わろう～
人・もの・ことに関わり、学びを創り出す子

佐東小学校

令和5年度 我が校のものがたり

子どもの実態

令和4年度は、研修テーマ「対話を通して考えを深める授業」を実現するために、「考えを深めるための単元デザイン」「対話を通して考えを深めるための手立て」の2つの視点で研修を行った。

その結果、次のような成果と課題が明らかになった。

- 考えをつなげて発言しようとする子どもが少しずつ増えてきた。
- 子ども同士で自然と交流する姿が見られるようになってきた。
- ▲相手を意識した聴く力・話す力・コミュニケーション力が低い。
- ▲交流する場面で、特定の子と関わったり、目的をもたず交流したりする姿が見られる。



研修テーマ

城東学園小中一貫教育共通テーマ

「対話を通して考えを深める授業」
～根拠をもって交流・対話し、考えを深める子～



研修の取組

【研究仮説】

考えを深めるための単元デザインを工夫し、子どもが根拠をもって交流・対話するための手立てを工夫すれば、児童が主体的に対話をし、考えを深めていけるようになるだろう。（創合力の育成）

【研究の手立て】

- (1) 考えを深めるための単元デザイン
 - ① 何が使え、何を教え、何を考えさせるか学習指導要領を活用し、明確にする。
 - ② 対話を通して深める場面を検討する。
- (2) 根拠をもって交流・対話するための手立ての工夫
 - ① } 教員それぞれが決める。
 - ② }

例・子どもが解決したいと思う学習問題の設定
・対話の場ややり方の工夫

本年度も、教員それぞれが研修する教科や手立てを考え、PDCAを繰り返し、自己の研修を積み上げていく形をとっていく。全体研修の場では、それぞれの実践を共有し合うことを通して、それぞれが打った手立てのよさや、改善点などを話し合い、教員全員で「対話を通して深める授業」を行っていくために大切にしていけるべきことや様々な手立てなどを学び合い、深めてく研修としたい。



学力向上への特色ある取組

落ち着いたある教室環境づくり UDたい夢

- ・ 教室内の掲示コーナーや教室備品置き場を統一
- ・ 学び合いコーナーを設置
- ・ すっきりした前面掲示

城東学園での小中一貫教育の推進

- ・ 研修テーマの統一
- ・ 小中での計画的なソーシャルスキルトレーニングの取り組み (言葉による伝え合い)



まなんでいく姿勢を支える取り組み

- ・ 学びじまん月間（4月）で学習ルールを守る意識作り
- ・ 「C（コミュニケーション）たい夢」
授業の中で自分の意見を話したり、話し合ったりするスキルを学ぶ時間（年間5時間）
- ・ 一人一台のiPadの活用（ドリルや学習アプリによる自主学习）
- ・ 学年部担任制&一部教科担任制

自分からまなんでいく場

- ・ 「まなびたい夢」(自立心)
自分の夢に向かって、自分で取り組むことを決めて、学ぶ時間 年間6時間



成長を認め合う場

- ・ 「宝たい夢」
互いのよさや、がんばりを宝カードに書き、仲間と渡し合う時間 年間5時間
- ・ 「家族ふれあい宝たい夢」
家族から宝カードをもらい、成長を実感する時間 年間4回



目指す子どもの姿

- ・ 子どもが、1時間や単元の中で何をすればよいか理解している。
- ・ 子どもたち一人一人が考えを表現している。
- ・ 教科の見方・考え方を働かせ、子ども同士で学習問題について話し合っている。
- ・ 交流の中で、よりよい考えにたどり着いたり、間違いに気付いたりしている。

中小学校

令和5年度 我が校のものがたり

子どもの実態

- 子どもたちのつぶやきや困り感から学びをスタートすることで、主体的に学びに向かうことができる。
- 設定された対話の時間の中で、自分の考えを相手に話すことができる。
- ▲対話の時間では、ただ自分の考えを話すだけで終わってしまい、考えの深まりが見られない。



研修テーマ

対話を通して考えを深める授業

～聞きたい 話したい 考えたい
子どもの「たい」を引き出す授業～



研修の取組

子どもたちが「聞きたい」「話したい」「考えたい」と思いをもって学習に取り組むことができるよう、子どもたちが考えたいくなる「学習問題」を設定し、授業を行う。そのために以下の取組を行っていく。

- (1) 子どもたちが考えたいくなる「学習問題」を設定していくための手立て
 - ・子どもたちの「たい」の姿の共通理解。
 - ・「学習問題」という用語、「学習問題」を設定する際のポイントの共通理解。
 - ・子どもの姿で、授業を振り返り語る校内研修。
- (2) 子どもたちが考えたいくなる「学習問題」の設定を支える手立て
 - ・付けたい力や学習のつながりを明確にした単元構想。
 - ・「学習問題」を支える、付けたい力に導くための補助発問や子どもたちの思考をつないだり揺さぶったりする切り返し。



学力向上への特色ある取組



「話す」「聞く」スキルアップ

子どもたち一人一人の「話す力」「聞く力」を高める取組を行っている。

どのような話し方、聞き方をしていけるとよいかを学級で共通理解をし、それらと自分の「話す力」「聞く力」を照らし合わせ、自身の目標を決め、スキルアップに向けて取り組んでいる。

中小日記・トーク

「書く力」「話す力」「聞く力」の向上に向けて、日記を書き、それを友達に紹介する取組を行っている。



家庭と取り組む家庭学習

子どもたちが学校での学習内容を伝えたり、保護者に家庭学習の様子を見てもらったりする「お茶の間学び発表会」を設定している。家庭と学びの共有を図る場、子どもをほめてもらう場としたい。

iPad の活用

iPad が「探究する」「思考する」「議論する」「復習する」等のツールとなるよう、有効的な活用方法を研究している。

また、子どもたちにとって「iPad を使う」ことが学び方の一つとなるよう、授業の中で自由に iPad を使うことができる環境作りをしている。

ウェルカムプログラム

入学してきたばかりの1年生が、小学校生活に慣れ、楽しく生活を送っていくことができるよう、2～6年生が1年生を手伝ったり、一緒に活動したりする場を設定している。



目指す子どもの姿



学校教育目標

「城東を愛し、未来をたくましく生き抜く子ども」

重点目標

「自分から 自分たちで」

大坂小学校

令和5年度 我が校のものがたり

子どもの実態（研修の成果と課題）

- 課題に対して前向きに取り組むことができる。
- ▲自ら問いを立て、自分事として探究していこうという意識が弱い。
- ▲自分の意見を伝えるだけで、交流する中で考えを広げたり深めたりするに至らないことがある。



研修テーマ

育成を目指す資質・能力を明確にし、学びをつなげる授業作り



研修の取組

- ・ 窓口教科 1・2年生…生活科 3～6年生…総合的な学習の時間
支援学級…生活単元学習
- ・ 目指す児童の姿に向けて手立てを講じ、授業研究において単元づくりが有効であったかを検討する。

【手立て】

① 資質・能力を明確にした単元づくり

- ・ 単元で育成すべき資質・能力を明確にする。（全体計画で示されたものをより具体的に捉える。）
- ・ 日常生活や社会に目を向け、自ら問いを見出させる。
- ・ 地域の材を教材化し、単元を構成する。

学校創立150周年という節目をいかして、地域学習を行う。

② 系統性を意識した単元づくり

- ・ 単元のつながり学年間のつながりを意識して単元をつくる。
- ・ 各教科で身に付けた資質・能力を活用・発揮できるように単元をつくる。

生活科を中心に園小接続を意識したカリキュラムを作成する。

創像力・創合力・創律力が発揮できるような学びの場を

意識した単元づくり



学力向上への特色ある取組

【目指す授業像の設定】



各クラスで、目指す授業像・学級像を設定しています。各ステージや年度の終わりには、振り返りを行います。

【小中一貫カリキュラム・話す聴く山ステップ】



大浜学園共通で、「聴く」に重点をおいて取り組んでいます。学校共通の目標を設定しています。

【iPad の効果的な活用】



机の横に iPad を入れています。授業の中で、必要に応じて活用しています。令和5年度は、月3回程度朝の活動でタイピング等活用法について練習する時間を設定する予定です。

【園小・小中連携】

園小・小中の連携を考え、生活指導・学習指導面において情報を共有しています。それを生かした声掛けや手立てを取り入れ、連携がスムーズに行われるようにしています。



目指す子どもの姿

自ら考え 主体的・協働的に学ぶ姿

- ・自らが設定した課題解決に向けて真剣に本気になって学習活動に取り組む姿。
- ・自ら計画を立て、どのように情報を集め、どのように整理・分析し、どのようにまとめ・表現を行っていくのかを考える姿。
- ・異なる多様な考えをもつ他者と適切に関わって課題の解決に向かう姿。
- ・力を合わせたり交流したりして協働的に学ぶ姿。

千浜小学校

令和5年度 我が校のものがたり

子どもの実態

昨年度は研修主題を「主体的に学び合う子を育成するための教科等指導の在り方」とし、研修を進めてきた。本校の児童は、与えられたことに対しては真面目に取り組むことができる。その反面、課題を自分ごととして捉え、思考・判断・表現していくことが苦手な傾向にある。そこで、昨年度はこの研修主題のもと、「伝え合う活動を通して学びを深める」ための手立てとして、①子どもにとって自分ごととして捉えることができる学習問題・課題②話したくなる・協働したくなる対話の場の設定③文房具としての ICT 機器の活用の3点を研修の柱とし、授業改善に取り組んだ。その結果、以下のような成果と課題が見えてきた。

- 導入で学習に見通しをもたせることで、子どもが意欲的に学習することへつながった。
- ICTの活用に慣れ、自分の考えを書き込んだり、説明したりするための道具として効果的に活用できた。
- 対話を通して自分の考えを伝え、考えを広げることができた。
- ▲他の考えを聞き、自分の考えを深めるところまでできていない。
- ▲自分事として課題を捉えるためには、課題の内容や提示のさらなる工夫が必要である。
- ▲個人の差が大きく、一部のできている子が進めている。
- ▲基礎学力が定着していない。

研修テーマ

じっくり考えやさしく伝え合う子を育成
するための教科等指導の在り方

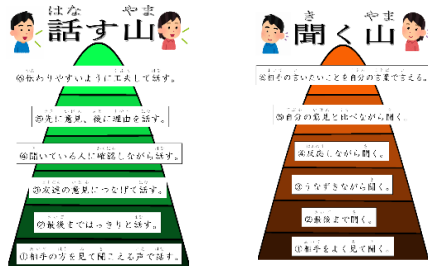
研修の取組

1. 追究したくなる課題の設定
 - ・子どもたちが納得、了解し、興味関心をもって取り組むことができる課題にする。
 - ・単元や本時のゴールの姿を明確にする。(つけたい力を明確にする。)
 - ・学習のねらいをはっきりさせる。 ・導入を短くする。
2. 主体的な聞き手を育てる対話の場の設定
 - ・対話の視点を明確にする。(何を、どの場面で聞き合うのか明確にする。)
 - ・全体、ペア、班、意図的なグループなど聞き合うグループを工夫する。
3. 次の学びにつなげるメタ認知の場の設定
 - ・評価の場面や形式などを工夫する。 子どもによる自己評価、他者評価を活用する。

学力向上への特色ある取組

【学びの土台づくり】

- ・授業づくり（自分の考えをつくる。まとめを書く。練習問題を行う。）
- ・話す山、聞く山の定着



- ・たしかめテスト
- ・週末日記（書く習慣を身に付ける。）
- ・iPad の活用（ミライシード等）

【外国語教育】

- ・1、2年生7時間の外国語活動
- ・ALTとの連携

【読書指導の充実】

- ・朝読書（週4日）
- ・読み聞かせボランティアや教師による読み聞かせ（毎週水曜日）
- ・学年に応じた必読書の設定
- ・毎日の家庭での読書の推進
- ・学校図書館を活用した授業の推進
- ・図書便りの発行

【ユニバーサルデザインを意識した授業】

- ・1時間の授業の流れが見通せるミニホワイトボードの活用等
- ・中学校区で統一した板書（学習問題は赤枠、まとめは青枠）

【情報教育】

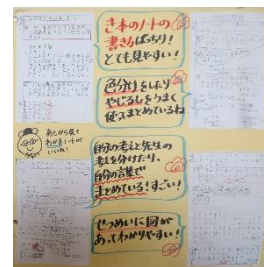
- ・スマホ講座、SNS ノートの活用
- ・情報スキル表の活用

【家庭との連携】

- ・家庭学習の手引きの配布
- ・家庭読書、親子読書の推進
- ・家庭学習時間の意識化
- ・iPad の活用（ミライシード等）

【教室環境の整備】

- ・学習コーナー、道徳コーナーの設置
- ・すっきりした前面掲示



目指す子どもの姿

課題を見通し、自分の思いや考えをもつことができる子
相手意識をもって聞き、自分の考えをわかりやすく伝えることができる子

横須賀小学校

令和5年度 我が校のものがたり

子どもの実態

- 友達の話に耳を傾け、最後まで聴くことができる。
- 班での話し合い活動では、友達と意見を伝え合うことができる子が多い。
 - ・友達の発表などに対して、考えながら聴くことができる子が少ない。
 - ・自分の考えに自信をもち、全体の場で表現できる子が少ない。



研修テーマ

「誰一人取り残さない教育」の実現に向けた授業づくり、学級づくり
～課題を自分ごととして捉え、子供達自身で課題解決ができる子～



研修の取組

(1) 単元構想の工夫

単元のめざす姿を明確化し、子どもたちが「やってみたい」「解決したい」と思うような、単元を通した課題や問題の設定をする。【創律力の育成】

(2) 話し合い、一人学びの工夫

授業の中で、効果的に個人で考えたり、考えを他者と伝え合って協働したりする場の設定をする。【創合力の育成】

ICTを活用して、調べたり、情報をまとめたり、まとめた情報を伝えたり、互いの意見を共有したりする。【創像力の育成】【一人一台端末の活用】

(3) まとめ・振り返りの工夫

授業で学んだことを自分の言葉で書いてまとめたり、「実生活で生かせそうなこと」「自分の考えで変化したこと」などを振り返ったりする場の設定をする。



学力向上への特色ある取組

◇職員統一事項◇

☆教師の心構え

- ・学習課題や学習問題の工夫
- ・問題を迫及するための手立て

☆板書例

- ・黒枠「学習課題」
- ・赤枠「学習問題」
- ・青枠「まとめ」の統一

◇ICT機器の活用◇

「一人一台端末の活用」として

☆児童が自ら考え、調べたり、まとめたり、伝えたり、共有したりする際に活用

(ミライシードや Jamboard の活用)

☆教師が ICT を導入・展開・まとめで効果的に活用

◇学びに関する取組◇

☆毎週水曜日はドリルパークを活用したドリル学習

☆毎週木曜日はコミュニケーション活動や書く活動

☆ドリルパークを活用した家庭学習の設定

◇学級づくりに関する取組◇

☆毎週月曜日は学級の日として、係活動や学級会の計画委員会などに活用

☆毎週金曜日はキラリ（自分や友達への価値付け）を書く

◇読書指導◇

☆朝活動での開き読み、読書

- ・図書ボランティアによる開き読み
- ・読書記録の活用

☆学校司書の活用

- ・読書の時間や授業での本等の紹介

◇園小中合同研修◇

「小中の接続」

☆県指定の研究発表

- ・小中共通の研修主題に対する、研修の取り組み、実践報告、研究発表
- 「園小」の接続

☆スタートアップカリキュラムの確実な実施

目指す子どもの姿

☆自分と友達の考えを比べながら聴くことができる子。

☆自分の考えやわからないことを友達に伝えることができる子。

☆話し合い活動において、友達と教え合ったり、考えを深め合ったりすることができる子。

☆既習の学びを生かして、問題を主体的に解決しようとしたり、実生活の中で試したり使ったりすることができる子。

大淵小学校

令和5年度 我が校のものがたり

子どもの実態

令和4年度研修テーマ

『根拠・理由を明確にして 自分の考えをもてる子』を育てる授業

- 「根拠・理由」を明確にするような発問ができ、自分の考えをもたせることにつながった。
- めあてに対するまとめを自分の言葉で書かせる時間を確保し、自分を振り返らせることができたことで、子どもの実態把握につながった。
- 物語文の系統性を表にまとめ、共通理解を図ったことで、横や縦のつながりを意識した単元構想ができた。
- ▲考えが書けても、自分の考えに自信がない。(納得解になっていない)
- ▲自分事として聴けていないため、反応ができない。(主体的な聴き手になっていない)
- ▲子どもたち自身の問いになっていない。(考えたくなるような問いになっていない)
- ▲全員が同じ土俵で参加できるような対話の場や時間の確保ができていない。



研修テーマ

自分事として捉え、みんなでつくりあげる学びの実践

大須賀中学校区共通研修テーマ (メインテーマ)

「誰一人取り残さない教育」の実現に向けた授業づくり、学級づくり



研修の取組

(1) 子どもたちの主体的な学びを生み出す単元構想や学習問題をつくる

- ア 主体的な学びを生み出す単元構想
- イ ねらいにせまり、子どもたちが考えたくなるような学習問題

(2) 子どもたち同士の対話や自分の考えと向き合う時間や場を設定する

- ア 対話の時間や場の設定
 - ・一人学び、ペアや小集団活動の使い分け
 - ・学習形態や構成メンバーの工夫
 - ・一人一台端末 iPad の活用 (子どもたちへのフィードバック、反転学習)
- イ 自分の考えと向き合う時間や場の設定

小中の接続

- ・学園の共通研修テーマ、共通実践項目の実践。



学力向上への特色ある取組

めざす授業像の共有・「聴き方」「伝え方」名人表の掲示

自分を知り、学級を知り、学級で学び合う姿を話し合い、学級の目標と自分の目標を立てる。掲示して定期的に振り返ることで成長を確かめていく。(メタ認知=創律力を大切に)

また、学園の共通実践項目である「主体的な聴き手の育成」に向けて、実態に合わせ段階を追いながら伝え方や心で聴くことを指導していく。(名人表)さらに、2週間に一度アンケートを実施し、自分の「聴き方」「伝え方」がどうだったか振り返ることで、意識と質を高めていく。

聴き方名人表

- よい姿勢で
- 相手の方を見て
- じっくり最後まで
- 反応を返しながら

伝え方名人表

- みんなに聞こえる声で
- みんなの方を見て
- はっきり最後まで
- 理由をつけて

学校と家庭をつなげる家庭学習

- ①音読、漢字、計算、読書を基本として取り組み、本読みカードを活用しながら、家庭と連携して指導していく。
- ②高学年は、自主学習に計画的に組み込み、自分から学ぶ姿勢を育てる。
- ③iPad を活用した反転学習を取り入れ、家庭で自分の考えをもてるようにする。

一人一台 iPad の活用

- ・対話の時間を確保するための反転学習。
- ・アナログとデジタルを使い分け。
- ・読書ファイルのデジタル化。

職員の研修の場の確保

- ・GIGA の時間、UD の時間等ミニ研修を行い、担当者が簡単なスキルやポイントを伝える。

語彙を豊かにする朝活動

- ①読書・読み聞かせ(月・火・木)
 - ・図書館デー、大淵小の30冊の活用。
 - ・親子読書の日の設定。
- ②ドリル学習日の設定(金曜日)
 - ・語彙力や読解力を高めるスキルトレーニングを行う。

マスターテストの実施

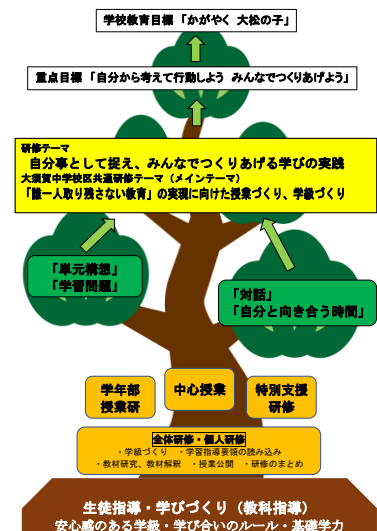
- ・学期に1回「マスターテスト週間」を設け、反復練習をすることで、基礎基本の定着を促す。
- ・テスト日程に向けて、計画的に学習を行う習慣を身に付けさせる。
- ・合格点を90点とし、合格するまで再テストを行う。

目指す子どもの姿

自分事として捉え、自分から考えて行動できる子

- ・「～したい」「やってみたい」「知りたい」という思いをもち、自分から行動する姿。
- ・学習問題を自分事として捉え、友達の意見を自分事として聴く姿。
- ・学級の一部の子だけで授業が進むのではなく、みんなで授業を作り上げる姿。
- ・友達の発言を聞いたり友達と交流したりして自分の考えを深める姿

令和5年度 大淵小学校研修構想図



中学校

栄川中学校

令和5年度 我が校のものがたり

子どもの実態

- 授業や日々の生活において、様々な活動に真面目に取り組む。
- 与えられた課題に対して、積極的に取り組む。
- 学び合いに進んで関わり合える。
- ▲難しい課題に対して、諦めが早い。
- ▲話し合い活動が、自分の意見を伝えるだけになりがちで深まらない。
- ▲基礎・基本の力の定着が弱い。



研修テーマ

進んでかかわり「学び合う」生徒の育成
～生徒が学び合いたくなる問いの設定～

研修の取組



栄川中学校区一貫研の研修テーマ「進んでかかわり学び合う子の育成」を受けて、本年度の研修テーマを「進んでかかわり「学び合う」生徒の育成 ～生徒が学び合いたくなる問いの設定～」と設定した。

サブテーマとして、「生徒が学び合いたくなる問いの設定」に焦点をあて、生徒が「知りたい!」「解決したい!」と思える課題（学習問題）の設定に重点をおいた研修を推進する。教師から与えられた課題から、「生徒が学び合いたくなる問い」を生み出していく。その問いがあつてこそ、「学び合い」が成立し、「学び合い」の質も高まっていく。この「生徒が学び合いたくなる問い」をもたせるには、教師のどのような手立て（仕掛け）が必要か、単元構想における「単元を貫く問い」を軸に、授業実践や教材研究を深化させていく。また、この取組は、「3つの創る力」の育成にもつながっていくと考える。

授業改善を進める上で大切なのは、生徒理解である。かけがわ型小中一貫カリキュラムのもと、「具体から抽象」「答えのない問い」へと学びを進化させていくことを学園内で共通実践していく。本年度の研修では、「生徒が学び合いたくなる問い」を各教科ごとに設定していくと同時に、教師の言葉（話し方、指示、発問：わかりやすい。明確）や板書（視覚化）にも意識を向け、指導技術を向上させていく。





学力向上への特色ある取組

<生活プログラムの実践>→「創像力」

毎日記入する予定帳の「生活のプログラム」欄を活用し、タイムマネジメントの力を育てる。方法としては、帰りの会の時間を使って、家に帰ってからの予定を記入する。できたら○、変更したらその内容を記入し、翌日担任に提出する。家庭での時間の使い方を考え、どの時間が学習に適しているかなど各自で判断する。

校時	教科	学習の予定	家庭学習	月	日	曜日	用いるもの
1		<未定額予定帳の活用> いつ、何に、何分取り進むかを帰りの会の中で考え、記入する。	①日記(10分)				
2		↓	②絵・英・数(2時間)				
3		下の「生活プログラム」に、時間設定したものを記入する。	③漢字IP(30分)				
4			④社 教科書を読む(30分)				
5			⑤読書(30分)				
6		<学習充実度の記入> 「今日の家庭学習は充実していたか?」の自己評価をする。 ◎→わかるようになった、新たな疑問が生じた等 ○→定着したと感じた等 △→ながら勉強、あまり充実していない等	満足度 ○				
進捗・反省			帰りの会内で日記も記入する。書き切れなかったら家で書く。				
生活プログラム			その時間にてきたら○時間がずれたら△色で書き進できなかったら×				

<読解力向上学習>→「創合力」

文章読解力の向上を目的とし、金曜日8:00~8:10の10分間で新聞記事を読み、内容理解を深める問いを解く。その後、理解した内容について班員とディスカッションする。文章読解力を高める活動であり、読み取る力、まとめる力、伝える力を育てる。



<学習相談会(GSK)>→「創律力」

家庭学習の方法・内容を見直したり、教科の学習の困り感を洗い出したりする機会を通して、学び方を学び、学びを深めることを目的とする。方法としては、今までの学習の取組や学習において困っていることなどの事前アンケートをとり、アンケートをもとに教師が生徒一人一人にアドバイスをしていく。生徒が自身の課題を把握し、自分で家庭学習ができるようになる姿を目指す。



目指す子どもの姿

学校教育目標 学び合い やり抜く 栄中生

学習…学び合い、粘り強く課題に取り組む生徒

生活…仲間を思いやりながら、自己判断して行動する生徒

特活…本物の「自主性」と「自立的な力」のある生徒

研修…学び合いを通じて、他者の意見に耳を傾け、自分の考えを深める



東中学校

令和5年度 我が校のものがたり

子どもの実態

- 授業に意欲的に取り組んだ。特に、小集団学習における対話活動は活発で、各教科の見方・考え方を働かせている様子が見られた。
- ▲家庭学習において、自分の学びを振り返り、改善していくことが必要である。



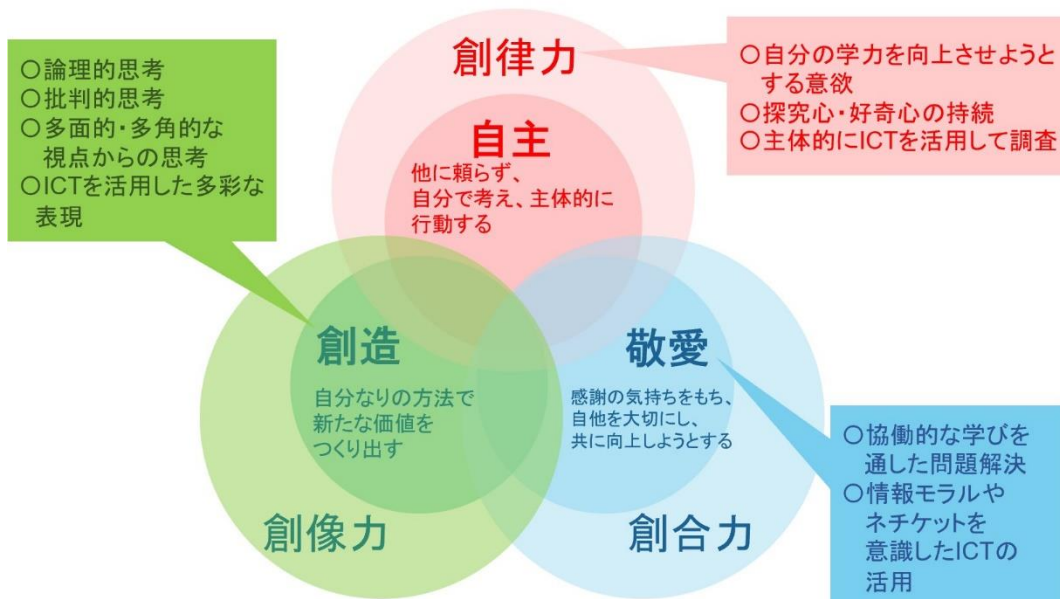
研修テーマ

東中型 GIGA スクールの実現
 ～深い学びに誘^{いざな}うグラグラの種～



研修の取組

東中生として身につけさせたい3つの資質・能力



学力向上への特色ある取組

授業における魅力的な課題（問い）の設定

- ①生徒が夢中になる
- ②適切な難易度
- ③生徒目線の課題

問いは必ず板書し、赤枠で囲む

協働的な学び（学び合い）

- ①疑問や意見が 双方向に行き交う
- ②教科における 「見方・考え方」が働く

小集団活動は
2～4人を使い分ける



個別最適な学びによる授業と
家庭学習の連動

自己調整学習
ができていな
い生徒

自己調整学習に
意欲的に
取り組む生徒

- スプレッドシートを用いたテスト計画
- 授業の板書をもとに学びを再構築する「レビューノート」

協働的な学びを深化させる
一人一台の iPad 活用「グラグラの種」

共有

仲間の考えを瞬時に共有し
考えを深めたり広げたりする

グラグラの種

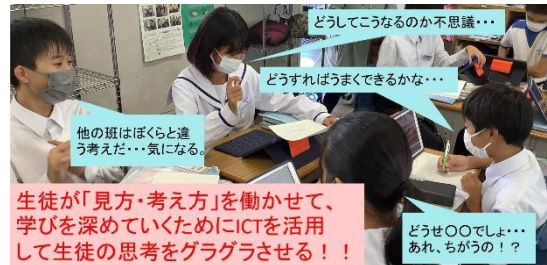
教科における見方・考え方を働かせながら、「発展的」「総合的」
に考えを活性化させて、生徒を深い学びに導くICT活用。

追加

「追加資料」を用いて、
さらに深い学びに

メタ

自分や仲間をカメラを用いて
客観的視点で再考



かけがわ型小中一貫カリキュラムを
意識した掛東学園の連携

保幼小との連携

- 定期的な一貫研の開催を通じた授業参観
- Teams を用いた教育課程や研修の情報交換

目指す子どもの姿

自主（創律力）・創造（創像力）・敬愛（創合力）を磨く

うつくしい りりしい東中生



西中学校 令和5年度 我が校のものがたり

- 明るく素直でまじめに取り組める生徒が多く、挨拶・創自（清掃）の態度は模範
- 上級生が手本を示し、下級生が見習う文化
- 小集団活動などをはじめ、授業に対して積極的に取り組める生徒が多い
- 必要に応じて一人一台端末を活用できる

生徒の実態

- ▲全体の前で自分の考えを発表したり、自ら進んで行動したりすることが不得手
- ▲新しい人間関係づくり・対人コミュニケーション力に欠ける生徒が見られる
- ▲知識を問われる問題には強いが、思考問題・応用問題の正答率が低い

〈研修テーマ〉 仲間と共に学びを深める力の育成

「考えたい！」と思える魅力的な問い



疑問や考えをもたせる



考えを伝えあう場面設定



多様な考えに触れ、広げる・深める



自ら粘り強く問題を解決する



自分の言葉でまとめ振り返る



生徒が主役
の授業

創像力

創合力

創律力

『協働的な学び』を構築するために

① 魅力的な問い

“自分ごと”として学ぶ魅力的な問い **学習テーマ** を青枠で囲む
“生徒の多様な” “学びから生まれる” “生活に根ざした” **問い**

② 形態・場面にこだわる

【形態】 全体、班（エキスパート、ジグソー）、ペア など
【場面】 考えを「つくる」「共有する」「広げる」「深める」「まとめる」

③ 教師 = ファシリテーター

つなぐ、価値づける、広げる、深める、切り返す、問い返す

④ 学びをつなぐ家庭学習

花崎ノートや一人一台端末を有効活用して、復習・予習
⇒授業と授業をつなぐ家庭学習を教科担任から助言

⑤ 単元構想 (学びのつながり)

単元を貫くテーマを掲げ、生徒の「**学びのつながり**」を意識

学力向上への特色ある取組

生徒が主役の授業

研修テーマ 仲間と共に学びを深める力の育成

【『協働的な学び』を構築するために】

- ① 魅力的な問い
- ② 形態・場面にこだわる
- ③ 教師＝ファシリテーター
- ④ 学びをつなぐ家庭学習
- ⑤ 単元構想（学びのつながり）

一人一台端末の活用

- ① Google Classroom を活用した授業展開
- ② 一人一台端末を使用した調べ学習
- ③ 一人一台端末を使用したレポート作成
- ④ Google フォームによるアンケート集計



家庭学習の充実

- ① 『花崎ノート(自学ノート)』の有効活用
- ② ミライシードを活用した家庭学習
- ③ 一人一台端末の活用

掛西学園の連携

掛西学園が目指す子ども像『自分で考え判断する思いやりの心をもった掛西学園の子』

＜重点＞

- ・自分で考え、選択し、決定する場
- ・園小中 15 年間の『縦の繋がり』や、各園校・家庭・地域の『横の繋がり』を意識したカリキュラム

＜具体的取組＞

- ① 一人一台端末の活用推進
- ② 学びを支える『聞く・話す』の徹底
- ③ 小中連絡会
- ④ 『だいじ』あいさつ、ふれあいデー、掛西学園繋がる宣言の普及・推進
- ⑤ 『あいさつで繋がろう運動』の実施

地域に根ざした学校として

- ① 地域の人材を生かし、学校へ取り込んだ活動（読み聞かせ、地元芸術家鑑賞会）
- ② 近隣高校・小学校・幼稚園との公開授業（主活動）による指導方法向上の連携

読書環境の充実

- ① 朝読書の実施
- ② ボランティアによる読み聞かせ
- ③ 図書館での朝読書
- ④ 図書委員会企画の読書啓発活動

目指す子どもの姿

生徒が主役として輝く学校

- ・仲間と共に主体的に学び合う生徒
 - ・仲間と共に生徒会活動・学級活動にチャレンジし、互いの成長を認め合える生徒
 - ・学級・学校が安心できる生徒
- 〈学習・研修〉
〈特別活動〉
〈生活〉

桜が丘中学校

令和5年度 我が校のものがたり

子どもの実態

- 真面目な生徒が多く、授業態度は良好である。
- 指示されたことに対して素直に取り組む。
- 仲間と一緒に話し合ったり、協力したりする活動に意欲的に取り組む。
- ▲やや粘り強さに欠け、難しい問題や困難な課題に対して諦めてしまうことがある。
- ▲生み出された次の課題や、上位の目標を目指して、自ら進んで学習に取り組もうとする自主性にやや課題がある。



研修テーマ

「深い学び」実現のための探究的授業改善



研修の取組

本校では、生徒・教師がそれぞれ未来へ一歩踏み出すために、主体的に探究し続ける姿を目指して、「探究」「情報」の2つに重点をおいて取り組む。

探究 教師版ライズスパイラル学習 学校教育目標「大志・共生・挑戦」

- ▶ 授業、国・県・市・学校等の方針に関する自らの興味を具体化し、個人主導で探究的に研修を進める。
- ▶ 横と縦の繋がり（教科部・学年部・他教科・カリキュラムマネジメント）を強化し、意見交換や授業参観等の協働的活動を通して、授業力向上に努める。
- ▶ 研修推進委員がメンターとして、授業者の共同研究者として共に授業を考える。

情報 教師版ライズスパイラル学習 学校教育目標「大志・共生・挑戦」

- ▶ 学校や家庭の取組をそれぞれアップデートし、教育活動を積極的にDX化する。
 - 職員へのDX情報提供。家庭へのデジタル講習会。生徒が授業や学校生活への中で、効果的に機器やシステムを利用し、新たな知恵・活用方法を創造できる環境づくり。
- ▶ ICTを活用した学びのユニバーサルデザインを意識し、iPadの特徴を生かした授業の構想・実践
 - ICT活用の学習場面における10の分類例を意識した、一人一台端末の活用



学力向上への特色ある取組

《 魅力ある授業づくり「創像力・創合力・創律力の育成を目指して」 》

- ☆ 主体的・対話的で深い学び
 - ・生徒にとって仲間や資料との対話等を通して、自己の考えを広げたり、深めたりすることで解決につながる適切な難易度の課題を設定し、協働的な学びが活性化されるようにする（教師が教えるから、生徒が学ぶ授業へ）
 - ・個別最適な学びができるよう、自己の学びを調整できるための手法を身につけさせ、振り返りを確実に行うことで、自分の次の学びが明確になり、意欲をもって取り組めるようにする
 - ・自分の考えをもち、表現する手段・手法を学び、相手の考えを受け入れる聴く姿勢を大切にすることで、学び合いができる集団づくりを推進する
 - ・一人一台の iPad の有効活用の研究と実践を進める → 積極的に授業や家庭学習で活用
 - ・読解力の向上を図る（NIE で得られた良さを生かす）
- ☆ 学習支援を必要とする生徒への配慮
 - ・所属感のある、全員が参加できる授業を目指す
 - ・構造的な板書や授業の流れのパターン化などを心がけ、UD化する
 - ・生徒の困り感を予測して教材教具を準備し、寄り添う指導をする
- ☆ 指導と評価の一体化
 - ・新学習指導要領に適合した授業の在り方や評価方法を研究する
 - ・評価を振り返ることで課題を見つけ、授業改善を図る
- ☆ 道徳教育の充実
 - ・周りの人や社会と関わりながら、より良く生きるための道徳性を育む
 - ・「A項目の自主自律」と「人権に関わるB項目」を重点内容とする
 - ・考え議論する道徳の研究を推進する ・評価方法の工夫を研究する
 - ・カリキュラムマネジメントを生かした指導方法を推進する



《 桜が丘学園（中学校区学園化構想） 》

- ・学校と家庭と地域とが思いをひとつにした地域の子育てをする
- ・情報の発信、受信（eじゃん掛川、各種便り、参観懇談会、学校関係者評価等）
- ・学校運営協議会、中学校区子ども育成支援協議会、民政児童委員主任児童委員と語る会
- ・部活動ボランティアの充実
→生徒が地域で活躍する場、賞揚の場の設置を積極的に行う
- ・志を育む教育の充実
→総合的な学習の時間（3年間）を見通した計画による、段階的なキャリア教育の充実を図る
→外部機関、地域人材と連携した教育

《 教科指導 》

基礎基本の定着と学ぶ意欲と追究する力の育成

(1) 授業三原則の徹底

- ① 進んで表現しよう
- ② 集中して聴こう
- ③ 忘れ物をなくそう

(2) 基礎学力の定着（学力向上プラン）

【最低学習時間の目安】	1年生	2年生	3年生
（桜が丘中学校区学園化構想）	90分	120分	150分

- ・基礎学力や学習習慣の定着を目指した、iPad による生徒・家庭・学校が連携した家庭学習チェックシステムの導入
- ・生徒の学びが授業や他への繋がり、やって良かったと思えるように工夫・見取りをする
- ・ミライシードを活用した家庭学習の充実

《 PBL（プロジェクト型学習） 》

PBLを取り入れた活動から、社会生活に必要なS-PDCAサイクルでの問題解決力やコミュニケーション力等を見に付ける

《 教育活動の積極的DX化 》

一人1台 iPad を用いて、学習・生徒会活動・学級活動・部活動の改善を図る。職員や家庭においても、既存のモデルの在り方を変革させる

目指す子どもの姿

「深い学び」を通して未来へ一歩踏み出す生徒

原野谷中学校

令和5年度 我が校のものがたり

子どもの実態と育てたい姿

- ・純朴でまじめな落ち着いた生活態度である。
- ・仲のよさや人なつこさ等、小規模集団の良さを感じる。
- ・「分からない」が言える、対話活動がさかんである。
- ・人間関係の悩み、小さな障壁に打ち勝てる子に育てたい。
- ・苦しくてもつらくても最後までやり抜く子に育てたい。
- ・日々の授業に一生懸命取り組み、対話活動も活発であるが、そこで満足せずに、得た知識や技能を自分のスキルとして定着できる子に育てたい。



研修テーマ

自ら考え 高め合う かしこい生徒

Ⅲ期「対話で『力』が付く授業づくり」

研修の取組

研修の3つの柱

付けたい力を明確にする	対話活動のブラッシュアップ	振り返りの時間の設定
本時の授業は3つの力のどの力を付けようとしているのが明確な授業づくりをする。	現状の対話活動に満足せず、対話の…「意味づけ」「位置づけ」「成り立たせる」の3つの視点で検証を行う。	帰りの会の時間に家庭学習の先取りとして、15分間の振り返りの時間を設定し、その日の授業の振り返り学習を行う

原野谷中对話活動の話し方



原野谷中对話活動のイメージ



学力向上への特色ある取組

対話活動のフラッシュアップ!

原中生自慢の対話活動。全員が参加し、仲間に寄り添った対話活動ができています。そんな対話活動を本年度はさらにブラッシュアップする。

- ・ 付けたい「3つの力」をより意識した授業。
- ・ 対話活動を「意味づけ」「位置づけ」「成り立たせる」という3つの視点で授業検討。
- ・ 3つの創る力を伸ばし合う対話活動。



振り返りの時間で家庭学習の先取り

教師が授業の中で、その日の授業の振り返る学習方法と内容を伝達し、生徒はその学習をその日に家庭学習として行うことにより、授業で得た力がより定着する。

さらに、家庭学習の先取りとして、帰りの会において15分間の振り返りの時間を設けており、15分は学校全体が学習の雰囲気となり、一人一人が集中する15分間となっている。



地域と共に生徒を育てる活動

○数学塾

地域の方と職員と一緒に数学の基礎学力を身に付けたい生徒に個別指導を行う。

○読み聞かせ

月1回地域の方による読み聞かせを行っている。

コミュニケーション活動

毎週金曜日の朝にコミュニケーション活動を行うことにより、コミュニケーションの基礎となる対話のスキルを磨いている。

目指す子どもの姿

学校教育目標 「夢を抱き いりしく歩む 原中生」

自ら考え判断するかしこい生徒
心ゆたかでありりしい生徒
ねばり強く取り組むたくましい生徒

北中学校

令和5年度 我が校のものがたり

子どもの実態

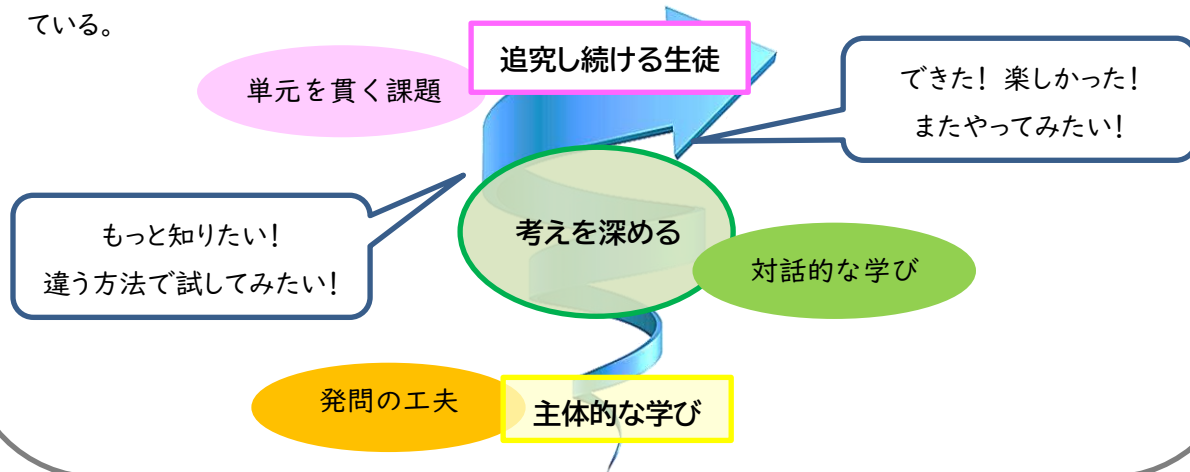
- ・素直で明るく、友達思いの生徒が多い。
- ・示されたことを素直に受け入れ行動できる生徒が多い。
- ・自ら考え行動し、自己の向上を図ることや継続して取り組むことが苦手である。
- ・壁を乗り越える問題解決方法を見つけることが苦手である。
- ・地域のために、中学生として、何か役に立ちたいという思いをもっている。

研修テーマ

自ら気づき 考えを深め 追究し続ける生徒の育成

研修の取組

一昨年度より、上記の研修テーマを掲げ、主体的な学びを引き出すために主発問を工夫したり、考えを深めている生徒の姿が見られる授業を目指し、対話的な活動の工夫に力を入れたりして取り組んできた。本年度は、追究し続ける生徒を育成するために、過去2年間の研修成果を活かし、さらに生徒の姿をイメージした単元・題材の構想にも力を入れることで研修テーマの実現に近づけていきたい。一つの単元・題材の学習後もその学びを活かし追究し続ける生徒の姿をイメージし、その姿への到達を目指した授業検討や実践、振り返りを積み重ねていく。課題解決していく場面では、「子ども同士」「教師」「地域の人」「先哲の考え」など、人やものとの関わりを取り入れ（創合力）、自己の考えを深める場面（創像力）を取り入れたい。こうした学び合いにより得られた自己肯定感や学びの充実感が、次の学びに向かう原動力となり、追究し続ける生徒（創律力）の育成につながることを期待している。



学力向上への特色ある取組



【目指す授業の姿と家庭学習とのつながり】

生徒が学習の内容や課題を自分の事として捉え、社会、生活などと関連付けながら学びを深める授業づくりを目指す。

- 教員の授業力向上のための校内研修 → 一人一授業公開研修、異教科・異年代のグループ研修
どの教科でも共通実践するユニバーサルな授業づくり
- 教科横断的な関連を意識した授業づくり → 全教科のカリキュラム一覧表を掲示し、それを参考に、
自身の教科の学びと他教科との関連を見つける
- 基礎学力定着のための家庭学習 → 毎日2ページの自学ノートへの取組（英語と数学は毎日学習）。自ら判断して学ぶ内容を見つける学習方法の工夫
- タブレット端末の活用 → 授業の振り返り場面、アンケート、調べ学習、資料の作成や共有、家庭での学習（ミライシードなど）に積極的に活用

【道徳科の授業「北中型道徳スタイル」】

- ・「導入」「中心発問の追究」「主体的な価値の自覚の振り返り」の3段階にて構成
- ・読み物などの資料を活用し、教材研究を行う
- ・個の振り返り時間の設定
- ・考え、議論する道徳を展開するための主発問の工夫（適宜学年で授業案検討）



【地域連携】

生徒が未来社会を切り拓くための資質・能力を共有し、地域の材を活用した「社会に開かれた教育」を実施（職場見学、職業講話、職場体験 等）
連携先の例）「森林組合」「しばちゃん牧場」「ならここの里」等



【かけがわ型小中一貫カリキュラムの活用】

「冀北の教え 五か条」（北中学校区子ども育成支援協議会）に基づき、学校・家庭・地域が連携して、生徒を育成していく。挨拶運動や募金活動など、生徒が主体となって活動する。



目指す子どもの姿



- ①挑戦をいとわない生徒
 - ②新たなレールを自ら切り拓いていける生徒
 - ③失敗を恐れない生徒
 - ④自らに負荷をかけ、現状を打破していこうとする生徒
 - ⑤当たり前が当たり前でできる生徒
 - ⑥自身でふさわしい行いを行うことができる生徒
- 郷土や学校に誇りを持ち「地域で光る北中生」の育成を目指す

城東中学校

令和5年度 我が校のものがたり

子どもの実態

令和元年度から、城東学園の小中4校で研修主題を「対話を通して考えを深める授業」に統一し、共通の手立てをもって授業研究を進め、「対話」を中心に研修を行った。その結果、次のような実態が明らかになった。

- 小集団活動の形が定着し、自分の考えをもち、小集団活動で意見を発表するようになった。
- 一人では達成できなかった課題に対して、対話を通して解決していく姿が多く見られた。
- ▲小集団活動では、活発に意見を言えるが、全体での活動では発表する生徒が少ない。
- ▲話合いの目的が不明確で、本時の目標とずれた話合いになってしまう時があった。

研修テーマ

「対話を通して考えを深める授業」

～生徒の主体的な学びを通して～

研修の取組

- (1) 「教師は、教える立場からファシリテーターの立場へ転換」の研修
 - ① 問いや資料提示を生徒の目線に立って工夫し、生徒が「考えたくなる課題」を設定。
 - ② 生徒自身の学ぼうとする力を信じ、教える立場から意見を引き出したり、対話を活性化させたりするファシリテーターの立場へ→ 生徒が、本時や単元の目標に向けて自分の学びを調整していく「創律力」を育成する。
- (2) 「対話を通して考えを深める」ための単元構想づくり
 - ① 単元の中で、考えが深まる「問い」や「対話」などの場面を設定する。
 - ② 多様な意見が出る問いの設定や他者との対話を通して、多様な考え方や視点にふれ、考えを深める。→ 「創合力」・「創像力」を育成する場面を設定する。
- (3) 学びを深める小集団活動～児童生徒が関わって学んでいく土台づくり～
 - ① 人数は3～4人 ② 隊形はT字 ③ ホワイトボード (iPad) の活用
- (4) ICTの活用 iPadを活用してまとめをしたり、表現をしたりする
- (5) 授業のユニバーサルデザイン～子どもが安心して授業に取り組むことのできる学習環境の創出～



学力向上への特色ある取組

小中のつながりを意識した授業

城東学園の一貫研修で、小学校の教員と「かけがわ型小中一貫カリキュラム」を参考にして、小学校の学習とのつながりを意識した授業づくりや、「コミュニケーション力」を育成する授業実践を連携して行う。

一人一台 iPad の活用

考えをまとめたり、発表したりする調べ学習等で理解や考えが深まるような活動を研修していく。また、全国の「城東中学校」と交流する活動を行っている。



学習環境づくり～学習の4原則～

授業における「学習の4原則」として、「タイム着席」「あいさつ」「自分の考えを伝える」「相手を大切に聞く」を設定する。学芸委員会が中心になって呼びかけをし、生徒自らが学習環境を整える努力をする。

園中のつながりを意識した交流

2年生家庭科での保育実習や城翼祭



にて年長児を招待し、一緒に競技を行うなど新たな交流活動を取り入れていく。

総合的な学習の時間

防災学習や職場体験、福祉学習など、城東や掛川など身近な地域を題材に課題解決学習を行う。学習を通して、地域や社会の中で生きるためのキャリアを育成する。



学校の学びと家庭の学びをつなぐ

「自学ノート」や「ワーク」などの課題以外に、iPadなどのICTを活用し、授業の学習とつながる家庭学習を取り入れていく。



目指す子どもの姿



学校教育目標	城東を愛し、未来をたくましく生き抜く子ども
重点目標	進んで挑戦する生徒 仲間と共に高めあう生徒

大浜中学校

令和5年度 我が校のものがたり

子どもの実態

○仲間の考えや表現に触れることで、思考を広げたり深めたりして、自分の考えを更によいものにしようとする姿勢が見られる。

△「力が付いたこと」を実感できていない生徒が一定数見られる。

(アンケート結果より)



研修テーマ

主体的・対話的で深い学びを目指して
～深い学びに通じる協働学習のあり方～



研修の取組

研修の柱【人とのつながりを大切にする】

- ・教師が生徒一人一人の学びを見取り、力を身に付けさせる授業を展開する。
- ・協働学習を進める生徒が仲間を大切にする学習集団をつくる。(訊く・聴く)
- ・教科部や学年部等を交えて多様なグループで研究を進める。
- ・研修を進める時間として、年間に数回程度、個人研究時間を設ける。

教員がそれぞれ深めたい内容を追求・共有し、学びの視野・分野を広げる。

- ①個人主導で探究的に研修
- ②育成を目指す資質・能力を明確にする
- ③振り返りの充実を図り、学習評価へ利用する
- ④一人一公開で単元計画を必ず書く
- ⑤授業アンケートを行う
- ⑥ICTの活用に関しての研修を年間に数回、OJTとして行う
- ⑦道徳の授業について研修を行う



学力向上への特色ある取組

①単元構想

「深い学び」を実現するために単元構想に焦点を当てた校内研修を推進する。一人一公開授業を行い、互いの授業を参観することで、共通認識や、教科横断的な指導を図る。

②家庭学習におけるICTの活用

「ドリルパーク」を使って、生徒が家庭で復習や反復問題に取り組む。

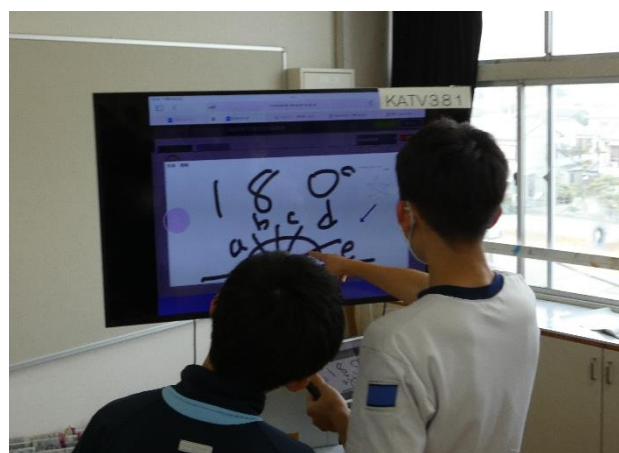
iPadを持ち帰り、課題やレポートの作成・提出等に各家庭で取り組む。

③データに基づく授業診断

授業によって生徒の学力が向上したかどうかを検証するために、学期ごとに授業評価アンケートをとる。その後、研修として総合的に分析を行い、授業改善を行う。

④大浜中学校区学園化構想研究事業

1学期に大浜学園の小中学校で公開授業と学園化構想研修を行う。上の研修とは別に、大浜学園の全職員が、学園内の異校種交流研修へ参加する。



目指す子どもの姿

- ・授業で付いた力を実感することで「もっと学びたい」「もっとできるようになりたい」「もっとわかるようになりたい」と思う生徒。
- ・仲間の考えや表現、わからなさや疑問に触れることで、思考を広げたり深めたりし、自分の考えを更によりよいものにしようとする生徒。

大須賀中学校

令和5年度 我が校のものがたり

子どもの実態

- ・問いに対して素直に驚いたり、不思議に思ったりすることができる。
- ・小集団活動では、男女問わず対話ができる生徒が多い。
- ・地域行事への参加率が非常に高く、地域とのつながりが強い。
- ・学びを深めようとしたり、物事を追究しようとしたりする意識が弱い。

令和4年度の研修の成果と課題

【成果】

「単元を貫く課題」を意識して単元構想を作成した結果、単元終末での生徒の姿をより具体的にイメージすることができたため、生徒の主体性をより高めることにつながった。また、授業と授業のつながりを今まで以上に意識した授業づくりができるようになった。

【課題】

- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」について全教員がさらに理解を深めて単元構想の中に組み込み、生徒一人一人の学びを深める工夫が必要である。



研修テーマ

誰一人取り残さない教育の実現に向けた授業づくり、学級づくり
～自他の考えを伝え合い、対話のできる集団づくりを通して～



研修の取組

重点項目1 「追究したい問い」を提供するための単元構想づくり

- 「追究したい問い」を提供するために、単元を貫く課題を意識した単元構想を作成する。
- 社会（キャリア）との関連性が感じられる課題を設定する。

重点項目2 生徒の「主体的な学び」を引き出し次へとつなげる「学習の記録」

- 学習活動の中で「学習の記録（振り返り）」を残すことで、自己をみつめ、次へと学びをつなげていくことで、生徒の「主体的な学び」を引き出す。

重点項目3 「誰一人取り残さない教育の実現」のための授業づくりと学級づくり

- コミュニケーション活動やICT機器の活用、ユニバーサルデザインを意識した教材づくり、学習の記録（振り返り）の活用により、誰一人取り残さない教育を目指す。

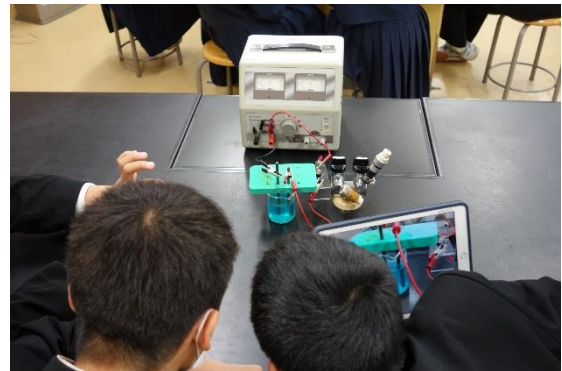


学力向上への特色ある取組

【おおすか型授業スタイルの確立】

生徒が創像力、創合力、創律力を発揮しながら学ぶことのできる授業づくりを進める。

- ① ICT機器（一人一台 iPad）の活用による学びの工夫
 - ・ 導入や板書の時間短縮
 - ・ 意見の共有の活発化
 - ・ 情報の選択・活用力の向上
 - ・ 発信力の強化（プレゼンテーションなど）
- ② 小集団活動を設定し、生徒同士の関わり合いを増やす。
- ③ 生徒の主体的な学びによって授業が展開されるような単元構想を練る。
- ④ 授業と家庭学習につながりを持たせ、学習の定着を図る。



【①朝学習・②コミュニケーション活動・③NE活動（Newspaper in Education）】

- ① 学習意欲の向上や基礎学力の定着を目指し、定期テスト前に朝学習を行う。
- ② 「主体的な聞き手を育てる」ために、レベルごとに異なる会話的活動（話す・聞く・要約する）を週1回行う。
- ③ 教科に関連した新聞記事を読み、読み取れたことを確認したり、まとめたりする活動を通して、生徒の読解力の育成と書く力の向上を図る。

【小中一貫カリキュラムへの取組】

- ① 「挨拶、安全、読書・家庭学習」を一貫教育の共通実践項目とし、また、本年度の重点を「主体的な聞き手を育てる」として、各校・園の取組を報告し、課題を明確にする。
- ② 年1回の園小中合同研修会を開催し、一貫教育を進めていく。



目指す子どもの姿

生徒一人一人が意欲的に学びに向かうことができる対話あふれる集団

